（案）

資料3

“夢”かなうまちへ

～新たな賑わいと交流の創出～

町田市中心市街地まちづくり計画

町田市中心市街地整備計画策定検討委員会

“夢”

様々な人が「夢」を持ってまちづくりに参加し、それがまちの力になる。

そして、まちの魅力が高まり、訪れる人の「夢のような時間」につながっていく…

この計画書は、そんなまちづくりへの思いを込めてまとめました。

かなうまちへ

まえがき | P.01
町田市中心市街地まちづくり計画とは | P.02
目次 | P.03
本編 | P.05

まえがき

町田市中心市街地整備計画策定検討委員会
委員長

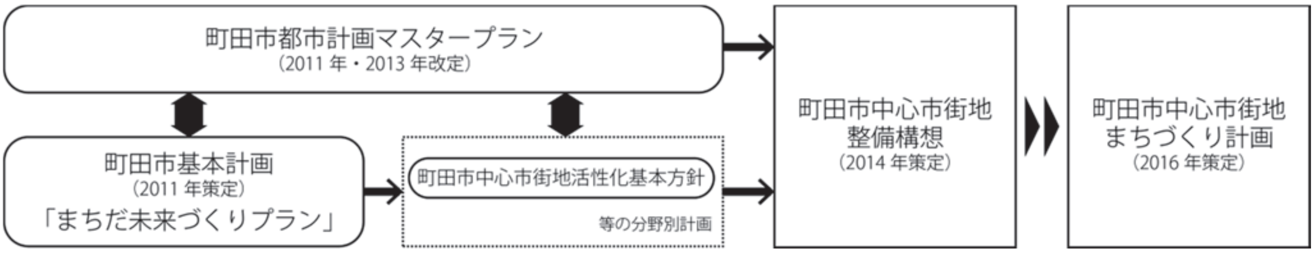
真野　洋介

町田市中心市街地まちづくり計画とは

計画の位置づけ

町田市では、町田市基本計画「まちだ未来づくりプラン」や「町田市都市計画マスタープラン」に基づき、「町田市中心市街地活性化基本方針」等の分野別計画と連携しながら、中心市街地の更なる整備に向けて、市民・事業者・市の協働のまちづくりの指針として「町田市中心市街地整備構想」を2014年3月に策定しました。

この「町田市中心市街地整備構想」を受け、中心市街地におけるまちづくりを具体的に進めるための計画として「町田市中心市街地まちづくり計画」を策定します。



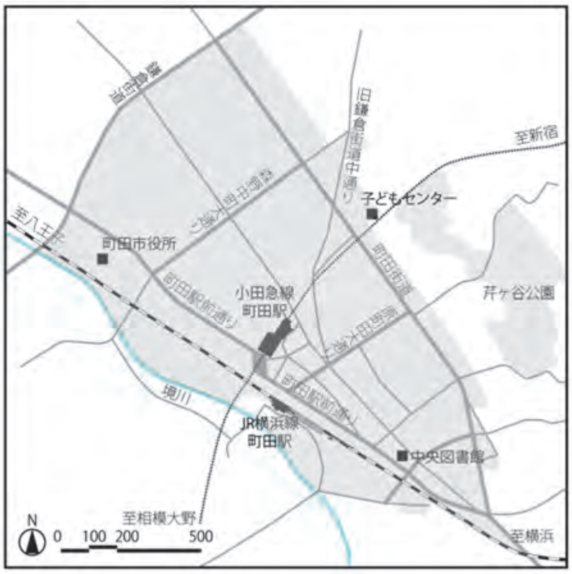
町田市中心市街地まちづくり計画の位置づけ

計画の役割

町田中心地域の人口がピークを迎えると予想される2030年のまちの姿を示すとともに、その実現に向けた取り組みや体制等を示すことで、まちづくりを進める上での**“道しるべ”**となる計画とします。

計画の対象範囲

本計画の対象は、「町田市中心市街地活性化基本方針（2009年策定）」における中心市街地の区域に芹ヶ谷公園を加えた、右図に示す範囲とします。



町田市中心市街地まちづくり計画の対象範囲

次ページ | 目次

1 まちづくりの再スタート

1・1 まちづくりの再スタートの必要性

町田市中心市街地の抱える課題から、まちづくりの再スタートの必要性を示します。

P.07

1・2 まちづくりの再スタートの方向性

まちづくりの再スタートの方向性を示します。

これまでのまちづくり 量の充足 ≫≫≫≫≫≫≫≫ これからのまちづくり 質の向上

P.09

"夢"かなうまちへ

～新たな賑わいと交流の創出～

目次

1 まちづくりの再スタート …05
1･1 まちづくりの再スタートの必要性 …07
1･2 まちづくりの再スタートの方向性 …09

2 まちづくりの取り組み …11
2･1 将来のまちの姿と６つの「目指すこと」 …13
2･2 "夢" まちプロジェクト …19

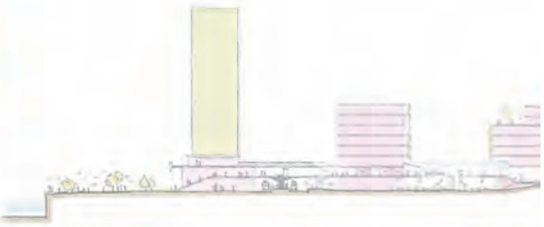
1 駅前空間大規模店舗 魅力向上プロジェクト …25
2 個性と魅力あふれる 商店街づくりプロジェクト …29
3 周辺資源をみがき まちの魅力として活かすプロジェクト …33
4 快適で便利な 交通ターミナルをつくるプロジェクト …37
5 南の玄関口の まちづくりプロジェクト …41
6 原町田大通り 憩いと賑わい空間を創造するプロジェクト …45
7 駅からつながる 水と緑の新たな都市空間づくりプロジェクト …49
8 様々なライフスタイルを支える 多機能な場を育むプロジェクト …53
9 町田発アート・カルチャーを楽しむプロジェクト …59
10 まちの魅力情報発信プロジェクト …63

3 まちづくりの進め方 …67
3･1 進め方の視点 …69
3･2 取り組みの評価（指標の設定） …73
3･3 まちづくりの体制 …77

2 まちづくりの取り組み

2・1 将来のまちの姿と６つの「目指すこと」

2030 年に実現する将来のまちの姿と、その実現に向けた６つの「目指すこと」を示します。



2・2 "夢"まちプロジェクト

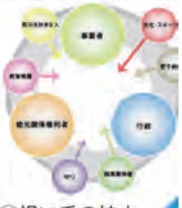
「"夢" かなうまち」の実現に向けた具体的な取り組みとして掲げる、プロジェクトを示します。

3 まちづくりの進め方

3・1 進め方の視点

「新しいまちづくりの進め方」の３つの視点を示します。

３つの視点
① 担い手の拡大 ②既存資源の活用
③ 柔軟かつ広がりある進め方



①担い手の拡大

メ

と」

P.13

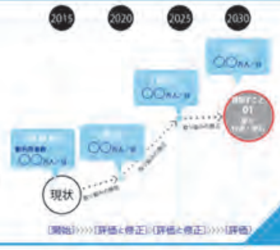
P.19

大

P.69

3・2 取り組みの評価（指標の設定）

まちの変化を把握するための取り組みの評価方法と、その目安となる指標を示します。



P.73

3・3 まちづくりの体制

様々な担い手の参画と、町田市中心市街地活性化協議会と町田市の連携によるまちづくりの体制を示します。

P.77

次ページ｜本編

1 まちづくりの再スタート

　本章では、まちづくりの再スタートの必要性や方向性を示します。

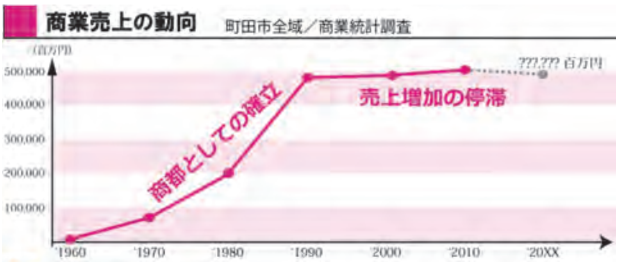
1・1
まちづくりの再スタートの必要性

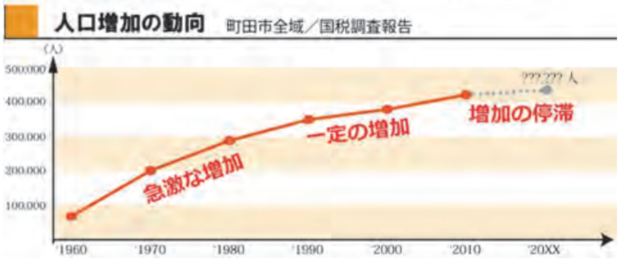
再スタートが必要な理由 ①
～人口の減少・商業のかげり～

首都圏有数の商業集積都市である町田市中心市街地ですが、近年はその強みである商業にかげりが見え始めています。

また、全国的に人口減少、高齢化が進む中、町田中心地域の人口も2030年をピークに減少に転じると予想されています。

このような動向の中でも活気あるまちであり続けるために、新たな対策、取り組みが必要です。





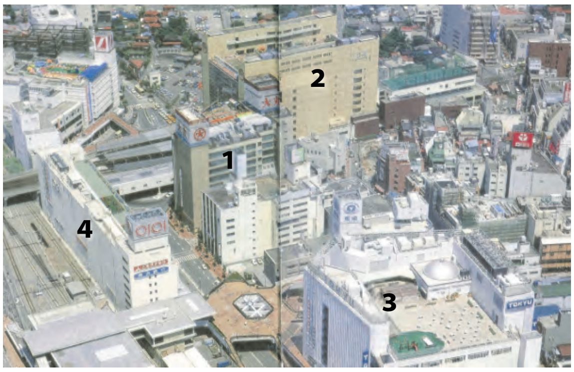
町田市中心市街地まちづくりの主な変遷

- 1958 町田市誕生
- **1960-**
- 1965 人口10万人突破
- 1967 町田バスセンター開業
- 1967 さいかや町田店オープン
- 1971 人口20万人突破
- 1971 大丸町田店オープン
- 1972 西友町田店オープン
- 1976 小田急百貨店オープン
- 1977 ペデストリアンデッキ完成
- **1980-**
- 1980 国鉄町田駅移転
- 1980 町田マルイオープン
- 1980 まちだ東急百貨店オープン
- 1983 人口30万人突破
- 1983 町田ターミナルプラザオープン
- 1983 東急ハンズ町田店オープン
- 1990 町田市立中央図書館オープン

人口増加に対応した商業都市化

駅移設前の町田市中心市街地

基盤整備に伴う商業発展



1970年代から立地してきた大規模店舗

1：大丸町田店(現：町田モディ)1971年／**2**：小田急百貨店町田店 1976年／**3**：まちだ東急百貨店(現：東急TWINS)1980年／**4**：町田マルイ1980年

再スタートが必要な理由 ②
～駅周辺施設の老朽化～

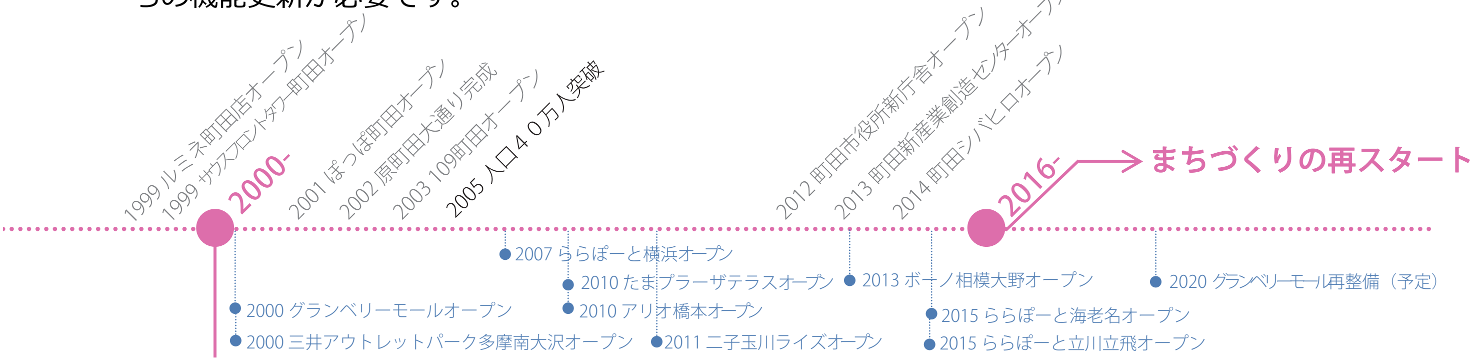
1960年代から始まった急激な人口増加をきっかけに、町田市中心市街地では、駅移転に伴う駅前環境整備、原町田大通りや駅前通りといった都市計画道路の整備、大規模商業ビルの建設などが行われ、広域商業拠点である今日の賑わいを支える基盤が整えられました。

しかし、近隣市に先駆けて整備された町田駅周辺の施設の老朽化が進んできており、まちの機能更新が必要です。

再スタートが必要な理由 ③
～周辺都市の目覚ましい発展による埋没危機～

近年、周辺都市において大型商業施設開発や駅前開発が行われ、「商都まちだ」は突出した存在ではなくなってきています。

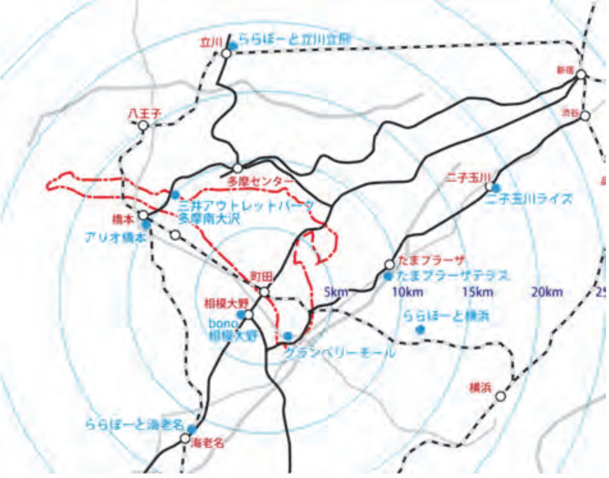
今後も続くと予想される激しい都市間競争の中で、町田市中心市街地が埋没せずに選ばれ続けるための取り組みが必要です。



周辺都市発展による商業停滞

周辺都市の発展

左上：南町田（グランベリーモール）／右上：二子玉川（二子玉川ライズ）／左下：相模大野（ボーノ相模大野）／右下：海老名（ららぽーと海老名）



町田市周辺の商業施設分布

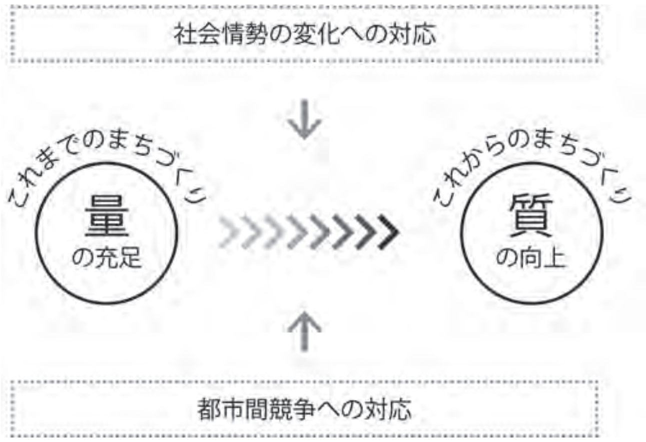
1・2
まちづくりの再スタートの方向性

“量の充足”から“質の向上”へ

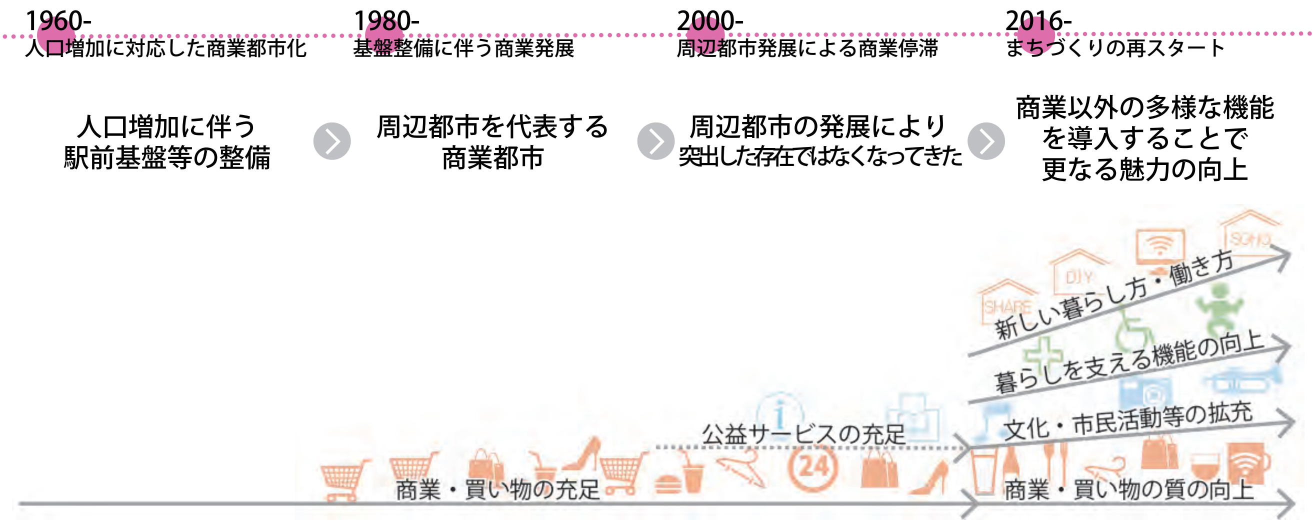
これまでは、施設や基盤の整備、商業の集積などといった、人口増加を前提とした“量の充足”を進めるまちづくりを行ってきました。

しかし今後は、「人口減少」「高齢化」といった時代背景の中でまちづくりを進めていくことになります。

これからも町田市中心市街地が他都市に埋没せずに選ばれ続けるために、これまでのまちづくりで形成された資源を維持・活用しながら、さらに多様な魅力を持つまちになることを目指し、”質の向上”に重点を置いたまちづくりに向けて再スタートします。



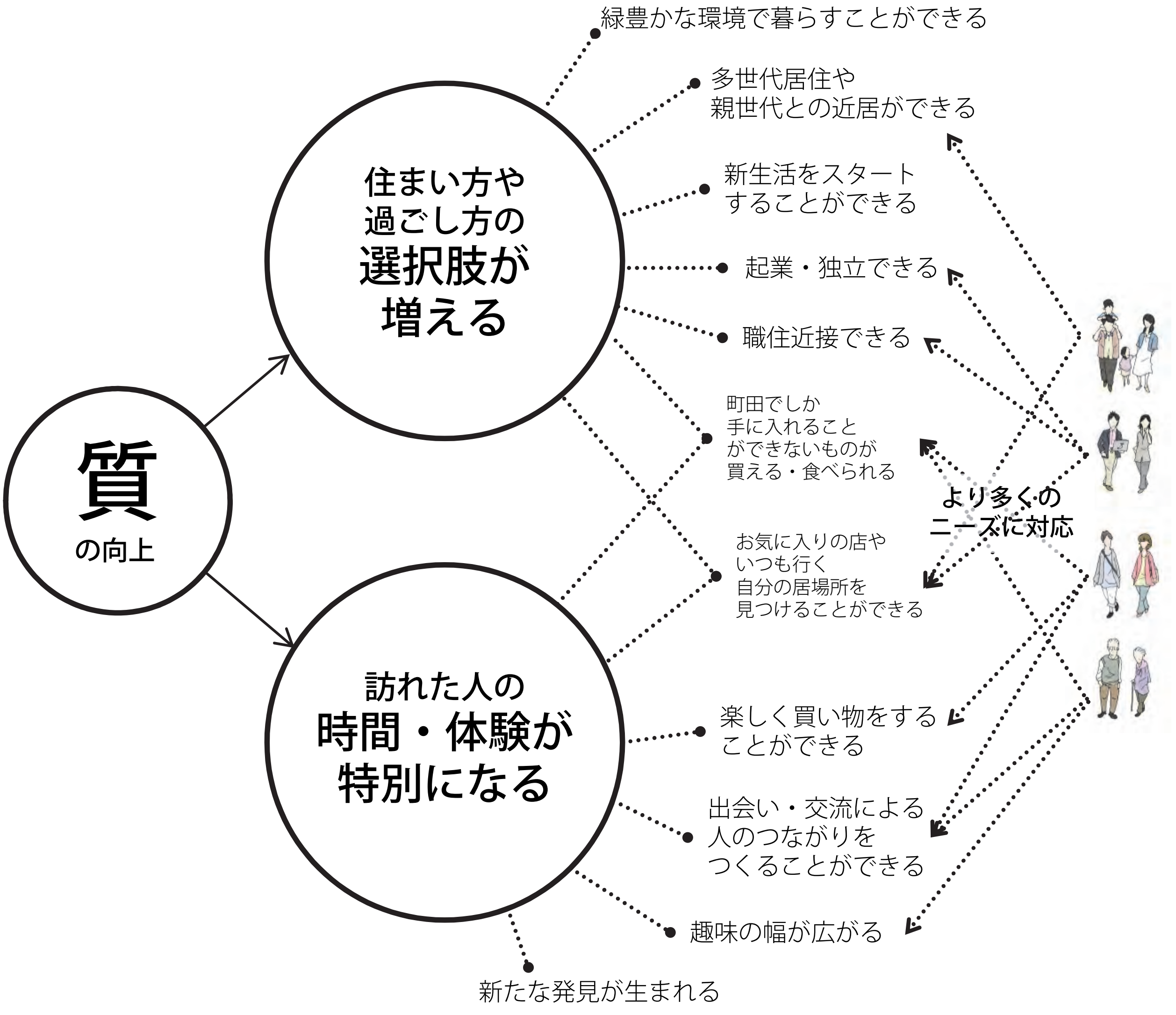
まちづくりの再スタートの方向性



“量の充足”から”質の向上”への転換のイメージ

“質の向上”とは

本計画では、必要なものを揃えたり、必要な用事を済ますことができるだけではなく、住まい方や過ごし方の選択肢が増えたり、訪れた人の時間・体験が特別になるようなまちづくりの考え方を、“質の向上”と呼びます。



2 まちづくりの取り組み

本章では、将来のまちの姿やそれに向けて目指す６つのこと、将来のまちのイメージを示します。

また、具体的な取り組みとして掲げる、プロジェクトを紹介します。

2・1
将来のまちの姿と６つの「目指すこと」

将来のまちの姿

　“質の向上”に重点を置いたまちづくりを進めることにより2030年に実現する将来のまちの姿として、以下に示す「”夢“かなうまち」を掲げます。

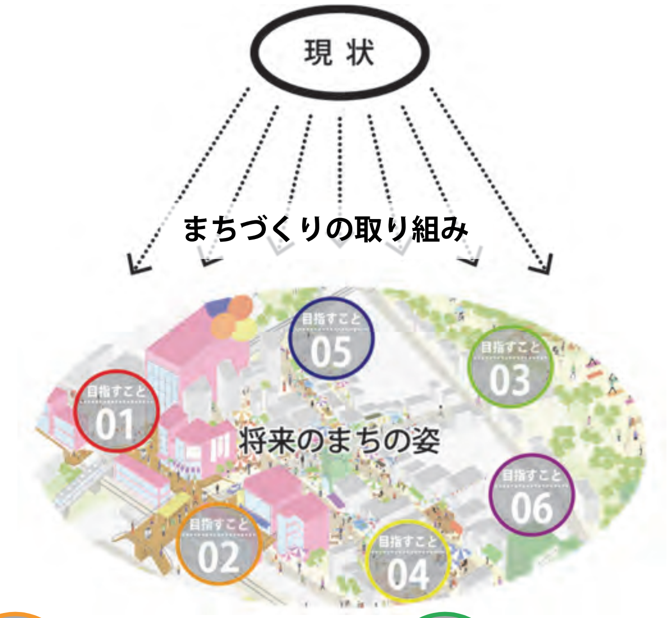
“夢”かなうまち

賑わいや交流に溢れ、
楽しい時間や新しいことが生まれ続けたり、
人々の出会いや活動のつながりが広がり続けるような、
まちに関わるみんなの夢がかなうまち

「”夢”かなうまち」のイメージ

６つの「目指すこと」

将来のまちの姿の実現に向けて、以下の６つのことを目指してまちづくりの取り組みを進めます。



目指すこと 01

駅が快適・便利

魅力ある駅前空間や、様々な場所にアクセスできるわかりやすい交通ターミナルをつくり、駅が快適・便利なまちを目指します。

駅利便性満足度が上がっているか等で検証

目指すこと 02

まちに行く目的がたくさんある

個性的な店舗を増やしたり、商業だけでない新たな賑わい機能を生むことで、駅利用者や周辺住民の来街目的を増やします。

中心市街地を訪れる頻度が増えているか等で検証

目指すこと 03

まちの魅力が向上しゆっくり過ごせる

魅力的な店舗・空間や、広場・カフェ等の憩いの場を増やして、まちの魅力を上げることで、ゆっくり過ごせるまちを目指します。

まちなかの滞在時間が増えているか等で検証

目指すこと 04

多くの出会い・活動が生まれる

様々なイベントや活動・研究内容の発信の機会を増やし、多くの出会い・活動・新しいつながりが生まれるまちを目指します。

交流が増えた印象を受ける人が多いか等で検証

目指すこと 05

ライフスタイルの選択肢がたくさんある

様々な働き方や住まい方のできる職住環境を整え、中心市街地で過ごす人々・暮らす人々のライフスタイルの選択肢を増やします。

暮らしやすさ満足度が上がっているか等で検証

目指すこと 06

通りが快適で歩いて楽しい

歩きやすい歩行空間や散策できるスポットを増やすことで、快適で楽しく歩けるまちを目指します。

歩行環境満足度が上がっているか等で検証

将来のまちのイメージ１　｜　エリアごとの将来のまちのイメージ

以下の“夢”を持つ４つのタイプの登場人物を通じて、将来のエリアごとのイメージを示します。

会社も自分ももっと大きく成長したい！

町田から世界へ飛躍するため、スキルアップしたい！

忙しくても充実した日々を過ごしたい！

中心市街地居住
２０－３０代
若手起業家

家族と一緒の楽しい時間を大事にしたい！

今しかないこの時間を家族みんなで共有したい！

郊外住宅地居住
３０代ファミリー
（子ども２人）

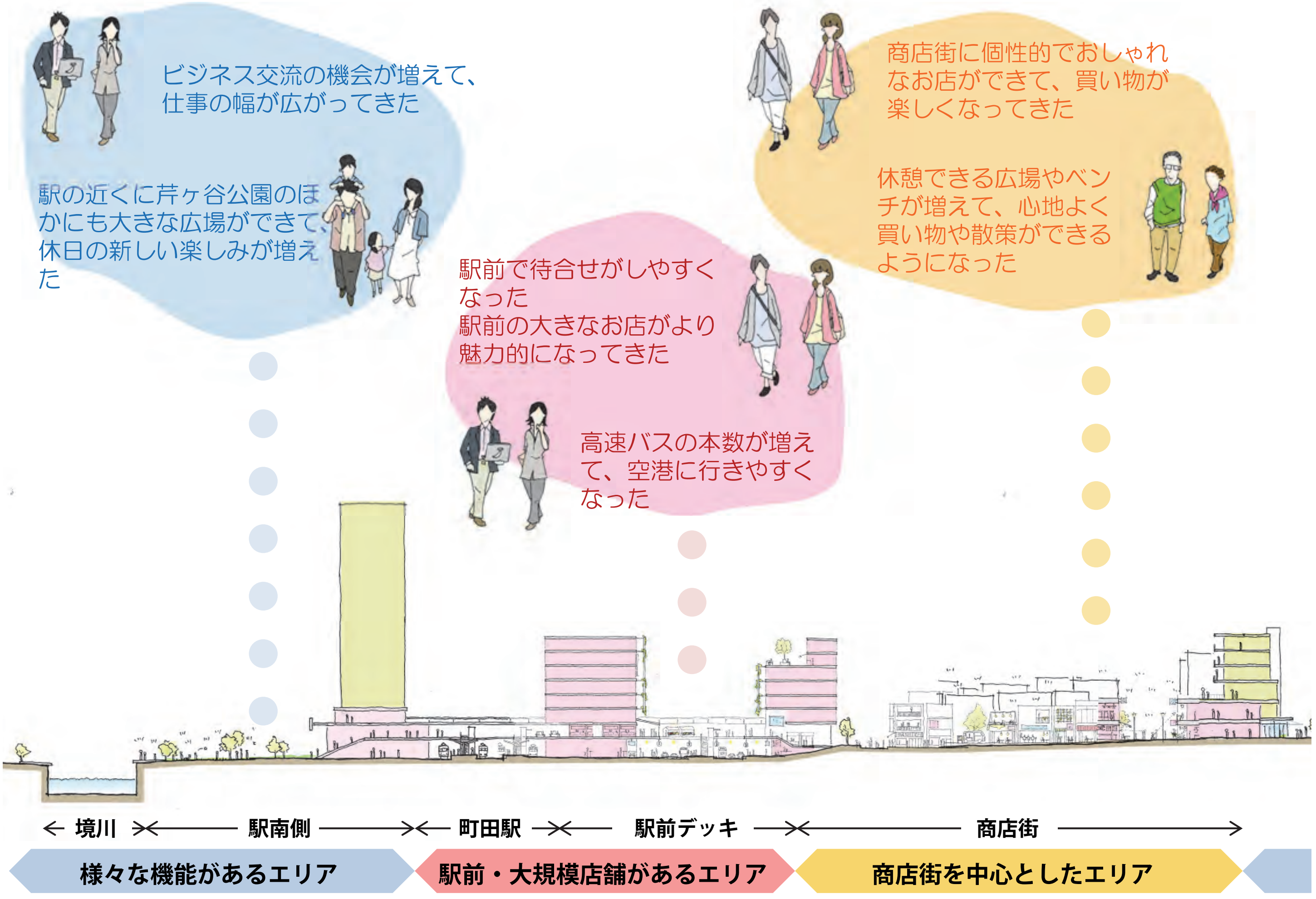
同じ志をもったみんなとワイワイ楽しく情報交換したり、切磋琢磨しながら成長したい！

充実の学生ライフを送りたい！

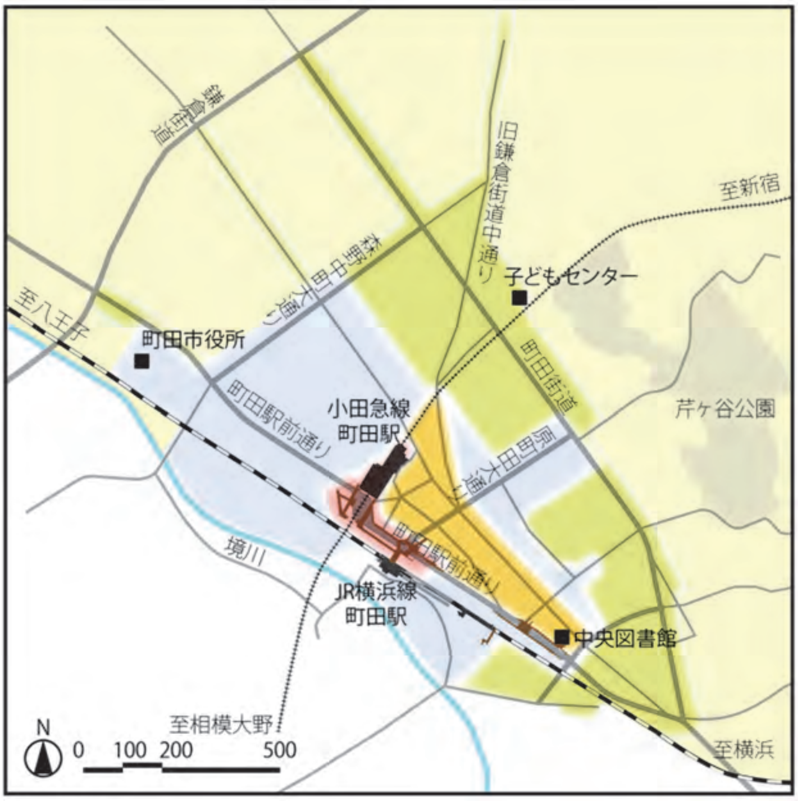
中心市街地通学
１０－２０代
学生

共通の趣味の話題で盛り上がったあの頃のように、夫婦でもっと一緒に豊かなゆったりした時間を共有したい！

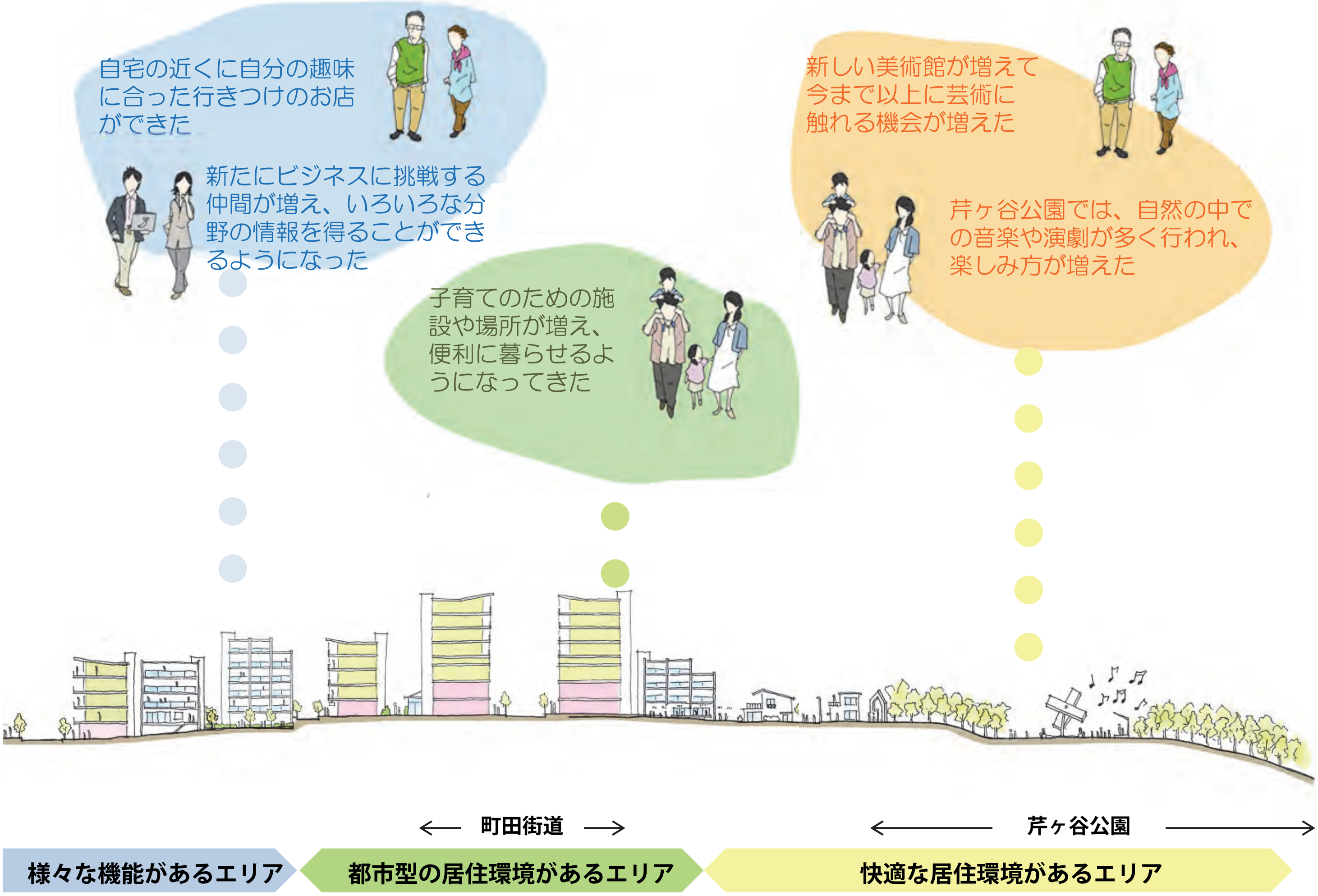
郊外住宅地居住
６０－７０代
アクティブシニア



エリア図



凡例
- 駅前・大規模店舗があるエリア
- 商店街を中心としたエリア
- 様々な機能があるエリア
- 都市型の居住環境があるエリア
- 快適な居住環境があるエリア



将来のまちのイメージ２　｜　将来のまちの過ごし方のイメージ

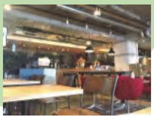
“質の向上”に重点を置いたまちづくりを進めることで、様々な人たちが思い思いの”夢”に合った多様な過ごし方をすることができるまちになります。

まちだで住む・働く【平日】

中心市街地に住まう若手起業家のワーキングライフ

中心市街地に職場と住まいを持つ若手起業家の働き方

① 朝早起きをして近くのカフェに行き、朝食をとりつつ、ニュースを読む。



② 職場であるシェアオフィスに出勤。入居する同年代の起業家と意見交換。

③ シバヒロでの週末イベントに向けて関係者の商店主と現場設営チェック。

④ 新産業創造センターに行き、引き続きイベント開催の打合せ。

⑤ そのまま若手起業家と食事することに。商店街の地元居酒屋で仕事談義。

⑥ 解散後、自宅近くの行きつけバーで、マスターとおしゃべり。

まちだに通う【平日】

中心市街地に通う学生のまちなかキャンパスライフ

中心市街地の学校に通う学生の授業後の楽しみ方

① 午前中は、電車を利用し、専門学校に登校。

② 授業後、仲間たちと近所のおしゃれなカフェで昼ごはん。

③ 午後は、友達に誘われ、新産業創造センターで社会人セミナーを受講。

④ 駅前で買い物の後は、海外帰りの友達とターミナルで待ち合わせ。

イメージ：西鉄天神高速バスターミナル（福岡市）

⑤ 商店街を少しぶらぶらし、商店街のお気に入りのお店で食事。

⑥ その後は、駅前で解散し、電車で帰宅。

登場人物

中心市街地居住
２０－３０代
若手起業家

中心市街地通学
１０－２０代
学生

郊外住宅地居住
３０代ファミリー
（子ども２人）

郊外住宅地居住
６０－７０代
アクティブシニア

まちだで子育て【休日】

子育て世代ファミリーのアクティブ休日ライフ

休日に中心市街地で過ごす子育てファミリーの楽しみ方

① 車を駐車場に停め、線路沿いを歩いて子どもセンターに向かう。

② 子どもセンターでは、親子料理教室に参加。

③ パパとお兄ちゃんは芹ヶ谷公園に移動して、一緒に体を動かす。

イメージ：石巻市子どもセンター（石巻市）

④ 新しくできた（仮称）国際工芸美術館で体験工房に参加する。

イメージ：町田市立博物館での体験講座の様子

⑤ 一方、ママと妹は、商店街沿いの広場でママ友と待ち合わせ、お茶。

⑥ 合流し、その後商店街で買い物をして帰宅。

まちだを楽しむ【休日】

郊外に住まうアクティブシニアの文化芸術ライフ

郊外から中心市街地に訪れるアクティブシニアの過ごし方

① 自宅からバスで中心市街地に到着。

② 駅前で中心市街地のイベント情報をチェック。

イメージ：渋谷駅観光案内所（渋谷駅）

③ ターミナルプラザで行われていたジャズイベントを見る。

④ 文学館通り沿いの雑貨屋に立ち寄ったり散策をしながら、カフェで一休み。

⑤ 国際版画美術館で展覧会を鑑賞。

⑥ 最後は、駅の近くの飲み屋で軽く一杯。ほろ酔いのまま、バスで帰宅。

2・2
“夢”まちプロジェクト

“夢”かなうまちへ

プロジェクトMAP

「"夢"かなうまち」の実現に向けた取り組み

「"夢"かなうまち」の実現に向けた具体的な取り組みとして、以下の**10のプロジェクト**を進めます。
状況の変化に応じて、プロジェクトの追加や内容の変更を行います。

1 駅前空間大規模店舗　魅力向上プロジェクト
2 個性と魅力あふれる　商店街づくりプロジェクト
3 周辺資源をみがき　まちの魅力として活かすプロジェクト
4 快適で便利な　交通ターミナルをつくるプロジェクト
5 南の玄関口の　まちづくりプロジェクト
6 原町田大通り　憩いと賑わい空間を創造するプロジェクト
7 駅からつながる　水と緑の新たな都市空間づくりプロジェクト
8 様々なライフスタイルを支える　多機能な場を育むプロジェクト
9 町田発アート・カルチャーを楽しむプロジェクト
10 まちの魅力情報発信プロジェクト

「６つの目指すこと」と ”夢”まちプロジェクト

将来のまちの姿の実現に向けた「６つの目指すこと」と”夢”まちプロジェクトの関係は、以下のとおりです。

目指すこと 01　駅が快適・便利

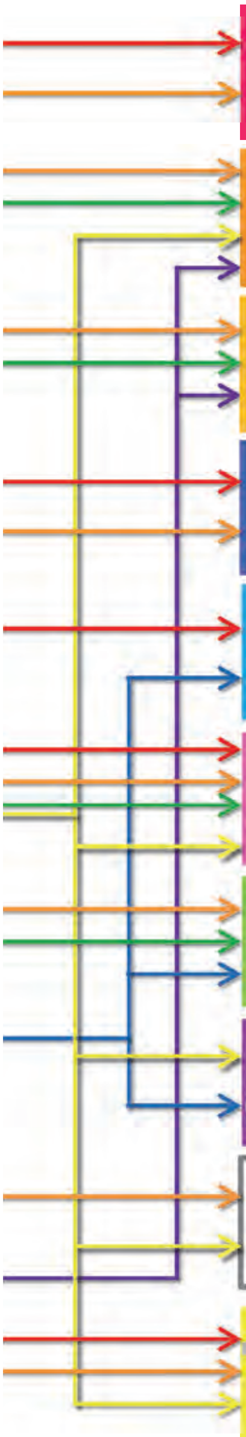
目指すこと 02　まちに行く目的がたくさんある

目指すこと 03　まちの魅力が向上しゆっくり過ごせる

目指すこと 04　多くの出会い・活動が生まれる

目指すこと 05　ライフスタイルの選択肢がたくさんある

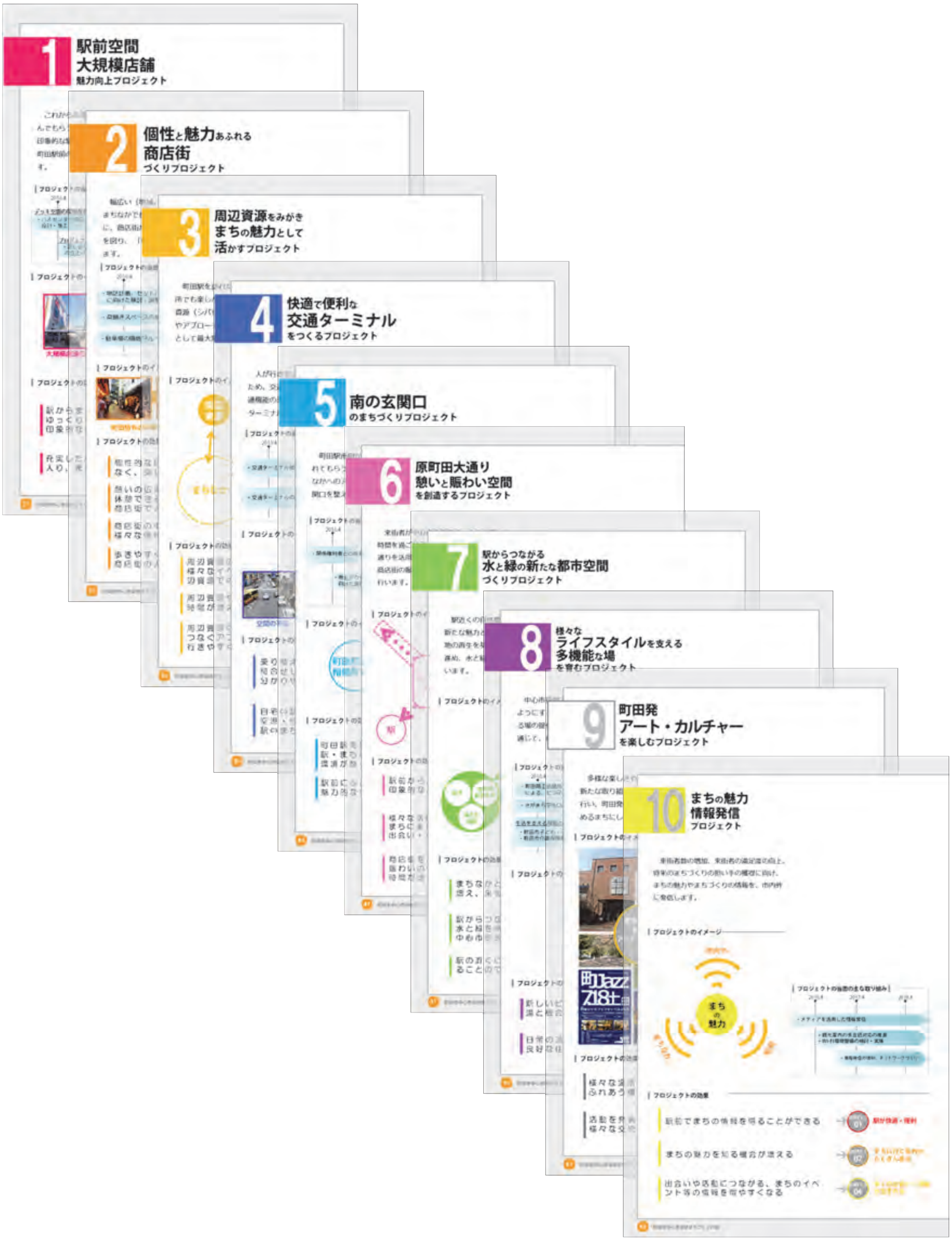
目指すこと 06　通りが快適で歩いて楽しい



	プロジェクト	目指すこと	概要	頁
1	駅前空間 大規模店舗 魅力向上プロジェクト	01 02	これからも市内外から多くの人に足を運んでもらうため、大規模店舗の魅力向上や印象的な駅前空間づくりを進めることで、町田駅前の持つ魅力の維持と向上を図ります。	P.25
2	個性と魅力あふれる 商店街づくり プロジェクト	02 03 04 06	幅広い（地域、年齢層、趣味）人たちにまちなかで長い時間を過ごしてもらうために、商店街が持つ個性や魅力の維持・向上を図り、「町田らしい商店街」をつくります。	P.29
3	周辺資源をみがき まちの魅力として 活かすプロジェクト	02 03 06	町田駅を訪れた人に駅から少し離れた場所でも楽しんでもらうために、周辺にある資源（シバヒロ、芹ヶ谷公園など）の活用やアプローチの充実を図り、まちの魅力として最大限に活かします。	P.33
4	快適で便利な 交通ターミナル をつくるプロジェクト	01 02	人が行き交い利用しやすい町田駅とするため、交通ターミナル機能の集約や広域交通機能の充実により、快適で便利な交通ターミナルづくりを行います。	P.37
5	南の玄関口 のまちづくりプロジェクト	01 05	町田駅南側から多くの人にまちなかへ訪れてもらうために、交通環境の整備やまちなかへのアクセスの強化を通じて、南の玄関口を整えます。	P.41
6	原町田大通り 憩いと賑わい空間 を創造するプロジェクト	01 02 03 04	来街者が中心市街地でゆっくりと楽しい時間を過ごせるようにするため、原町田大通りを活用し、駅前の憩いの空間づくりや商店街の賑わいを連続させる空間づくりを行います。	P.45
7	駅からつながる 水と緑の新たな 都市空間 づくりプロジェクト	02 03 05	駅近くの自然豊かな空間を中心市街地の新たな魅力として活用するために、既存団地の再生を契機として計画的な土地利用を進め、水と緑の新たな都市空間づくりを行います。	P.49
8	様々なライフスタイル を支える 多機能な場を育む プロジェクト	04 05	中心市街地で充実した暮らしを楽しめるようにするため、幅広い人たちが活躍できる場の提供や快適な住まいづくりの提案を通じて、様々なライフスタイルを支えます。	P.53
9	町田発 アート・カルチャー を楽しむプロジェクト	02 04	多様な楽しさや感動を味わえるように、新たな取り組み、文化芸術拠点の整備等を行い、町田発のアート・カルチャーを楽しめるまちにします。	P.59
10	まちの魅力 情報発信 プロジェクト	01 02 04	来街者数の増加、来街者の満足度の向上、将来のまちづくりの担い手の獲得に向け、まちの魅力やまちづくりの情報を、市内外に発信します。	P.63

プロジェクトシート

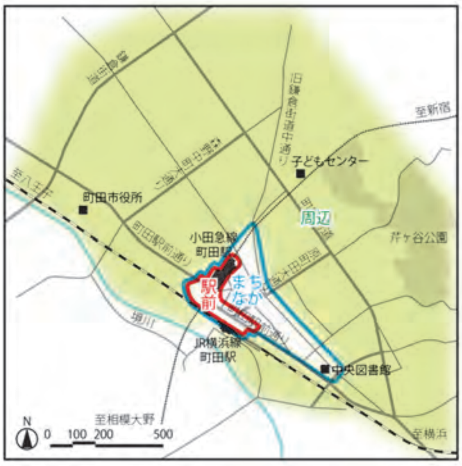
プロジェクトの目指す将来像・取り組み・進め方を共有するため、「プロジェクトシート」を作成しました。



まちの構造について

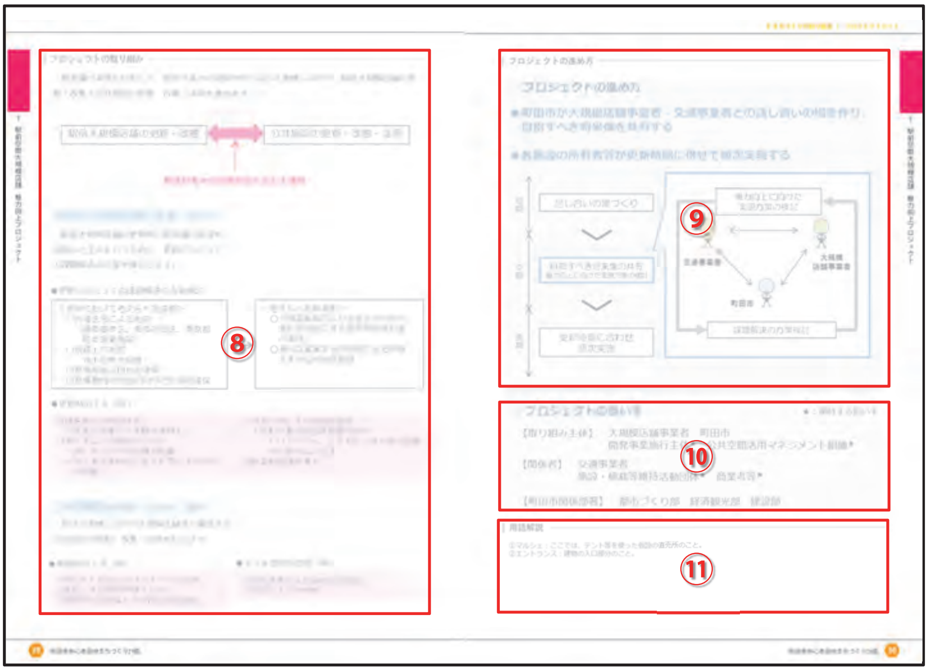
「プロジェクトシート」では、「駅前」「まちなか」「周辺」を概ね右図の範囲とします。

□ 駅前
□ まちなか
■ 周辺



「プロジェクトシート」の見方

「プロジェクトシート」は、下記の①~⑪を１セットとしてまとめています。

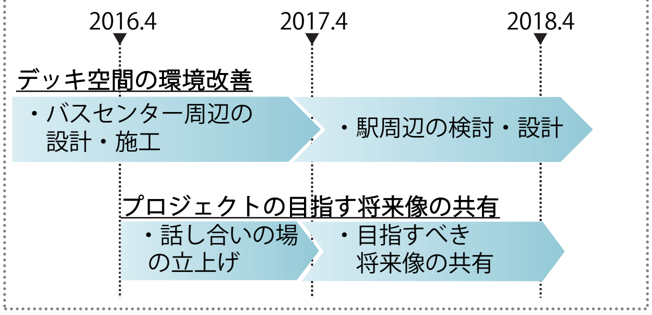


①名称
②概要
③実施範囲
④当面のスケジュール
⑤実施イメージ
⑥効果
⑦将来像
⑧取り組み
⑨進め方
⑩担い手
⑪用語解説

1 駅前空間 大規模店舗 魅力向上プロジェクト

　これからも市内外から多くの人に足を運んでもらうため、大規模店舗の魅力向上や印象的な駅前空間づくりを進めることで、町田駅前の持つ魅力の維持と向上を図ります。

プロジェクトの当面の主な取り組み



プロジェクトの対象範囲

プロジェクトのイメージ

大規模店舗の魅力向上

＋

印象的な駅前空間づくり

→ 町田駅前の魅力の維持と向上

プロジェクトの効果

駅からまちなかに出やすくなり、ゆっくり待ち合わせできる印象的な駅前空間になる

→ 目指すこと 01 駅が快適・便利

充実した駅前店舗で様々なものが手に入り、また来たくなる

→ 目指すこと 02 まちに行く目的がたくさんある

プロジェクトの目指す将来像

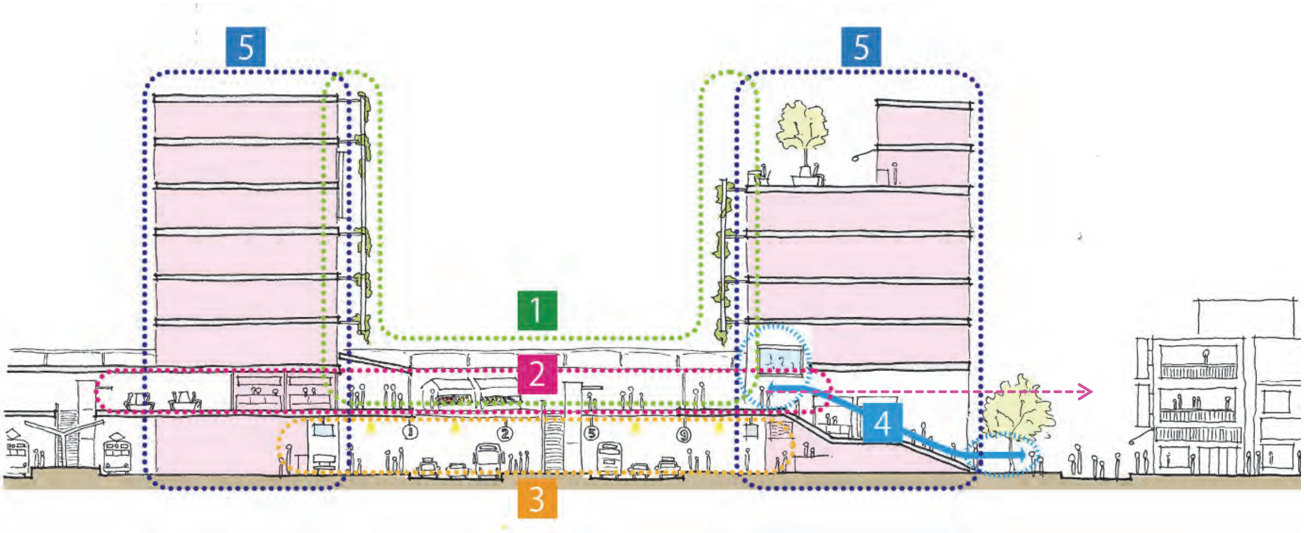
多くの人で賑わい他都市と差別化された印象的な風景を持つ駅前空間

大規模店舗とデッキ等の公共施設で構成される現在の駅前空間の魅力をより一層向上させることで、多くの人で賑わい、他都市と差別化された印象的な風景を持つ駅前空間を目指します。

（大岡山駅）

（大泉学園駅）

（姫路駅からの風景）



（2k540 AKI-OKA ARTISAN）

（新宿モザイクモール）

左上：デッキ上店舗／マルイ町田
右上：新業態店舗／有隣堂トレアージュ白旗店
左下：テイクアウトショップ／Coffee.Jr.MACHIDA
右下：マルシェ*①／柏の葉※

※写真提供：柏の葉アーバンデザインセンター[UDCK]

プロジェクトの取り組み

　将来像の実現を目指して、官民が各々の役割分担に応じて連携しながら、駅前大規模店舗の更新・改善と公共施設の更新・改善・活用を進めます。

駅前大規模店舗の更新・改善 ⇔ 公共施設の更新・改善・活用

官民が各々の役割分担に応じて連携

駅前大規模店舗の更新・改善

　駅前大規模店舗の更新時に将来像の実現を目指した工夫を行うために、更新に当たっての課題解決の方策を検討します。

●更新にあたっての課題解決の方策検討

＜更新において考えられる課題＞		＜考えられる解決策＞
○各種法令による制限 （建築基準法、都市計画法、東京都駐車場条例等） ○規模上の制約 狭小な敷地規模 ○整備可能な用地の確保 ○整備費用の捻出に向けた財源の確保	⇔	○地域貢献等により法令上の制限の緩和を可能にする都市開発諸制度の活用 ○適切な事業手法の採用による規模拡大や公共施設整備

●更新時の工夫（例）

○緑を感じる施設計画
- 環境に配慮した外観のデザイン

○デッキ沿いの賑わいづくり
- デッキ沿いへの店舗の配置
- デッキと連続したエントランス*②空間の創出

○地上とデッキの円滑な接続
- 賑わいある施設内動線の確保（バリアフリー、エスカレーター等の設置、雨に濡れない工夫）

○新業態店舗の導入

公共施設の更新・改善・活用

　官民で連携しながら大規模店舗等と隣接する公共施設の更新・改善・活用を行います。

●更新時の工夫（例）

○デッキ下空間の暗いイメージの改善
○舗装、施設等のデザイン統一
○緑を感じる充実した待合空間の創出

●デッキ空間の活用（例）

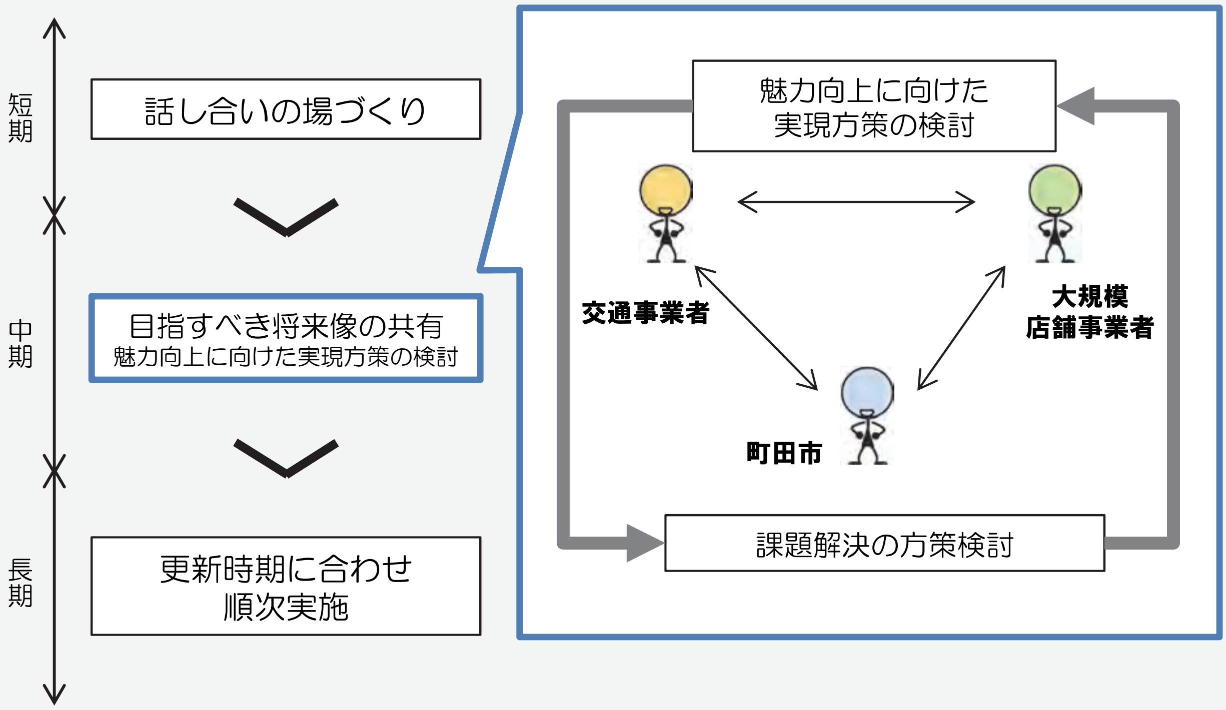
○官民連携による賑わいの創出
○マルシェ*①の開催

プロジェクトの進め方

□ プロジェクトの進め方

●町田市が大規模店舗事業者・交通事業者との話し合いの場を作り、目指すべき将来像を共有する

●各施設の所有者等が更新時期に併せて順次実現する



□ プロジェクトの担い手

★：期待する担い手

【取り組み主体】　大規模店舗事業者　町田市
開発事業施行主体★　公共空間活用マネジメント組織★

【関係者】　交通事業者
施設・植栽等維持活動団体★　商業者等★

【町田市関係部署】　都市づくり部　経済観光部　建設部

用語解説

＊①マルシェ：ここでは、テント等を使った仮設の直売所のこと。
＊②エントランス：建物の入口部分のこと。

2 個性と魅力あふれる商店街づくりプロジェクト

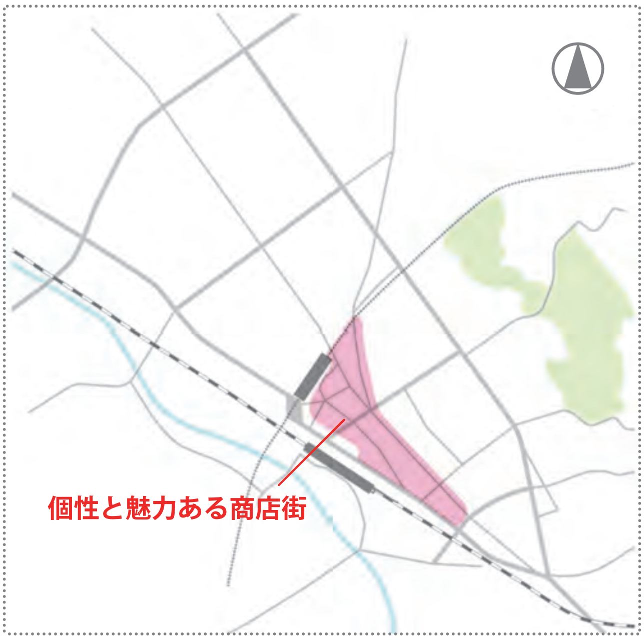
幅広い（地域、年齢層、趣味）人たちにまちなかで長い時間を過ごしてもらうために、商店街が持つ個性や魅力の維持・向上を図り、「町田らしい商店街」をつくります。

プロジェクトの当面の主な取り組み

2016.4　2017.4　2018.4

- 地区計画、セットバック*①空間の活用ルール運用に向けた検討・調整
- 荷捌きスペースの検討・確保
- 駐車場の隔地*②ルール運用に向けた調整

プロジェクトの対象範囲



プロジェクトのイメージ

町田特有の雰囲気ある商店街　個性的な店舗

→ 個性や魅力を活かした商店街づくり

プロジェクトの効果

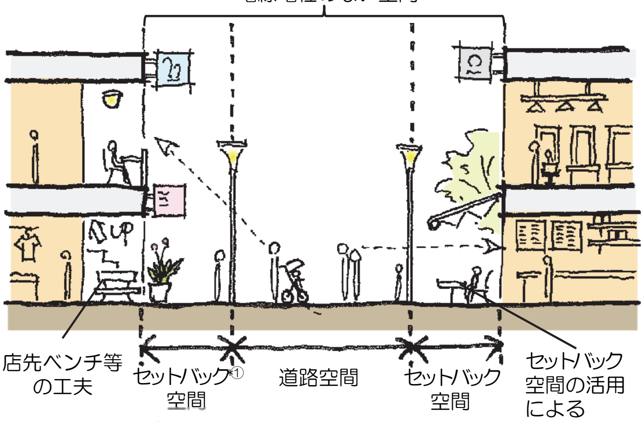
- 個性的な店舗が増え、日常の買物だけでなく、楽しみや発見がある商店街になる → 目指すこと 02 まちに行く目的がたくさんある
- 憩いの広場や様々な過ごし方ができるお店、休憩できるカフェなどが増え、商店街で過ごす時間が増える → 目指すこと 03 まちの魅力が向上し、ゆっくり過ごせる
- 商店街の中にギャラリーやイベントが増え、様々な情報や文化に出会える → 目指すこと 04 多くの出会い・活動が生まれる
- 歩きやすく、緑が多い通りが増え、商店街の人通りが増える → 目指すこと 06 通りが快適で歩いて楽しい

プロジェクトの目指す将来像

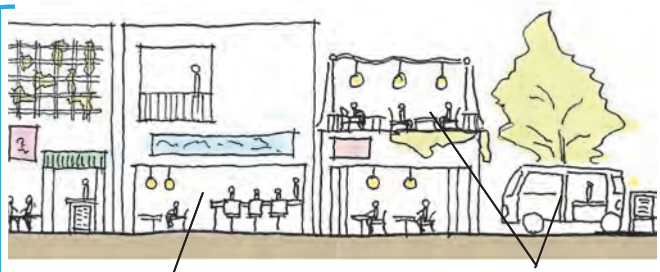
町田らしい「個性」「魅力」にあふれる商店街

通りや路地の特徴を活かしつつ、それらが一体となった個性と魅力ある商店街を目指します。

通りと路地など様々な特徴を持つ商店街



［通り］の断面イメージ



［路地］のイメージ

“個性的”な店舗の充実　個性 × 魅力　賑わいある“魅力的”な空間

- いろいろな過ごし方ができる店舗（活動やおしゃべりができるカフェやテラス）
- なんでも揃う[通り]と雰囲気ある店舗が集まった[路地]の共存
- 個性的でおしゃれなものが手に入る店舗
- 多種多様な店舗が並ぶ商店街

- 低層階の店舗利用等によるにぎわいの連続性
- 店先の広場・ベンチなどの工夫によるゆっくり過ごせる空間
- 店内外まで賑わいが溢れ出す空間
- 憩いの空間（緑の増加等）
- 町田らしい商店街の景観

商店街にある個性的な路地の例

憩いの空間の例／ぽっぽ町田広場

プロジェクトの取り組み

中心市街地の商店街の持つ個性や魅力の維持・向上により、楽しく回遊できる「町田らしい商店街」を実現します。

商店街の個性や魅力ある雰囲気の維持

まちづくりルールによる建築物の用途の誘導やセットバック空間活用の推進、無電柱化等の公共施設整備により、商店街の魅力的な雰囲気を維持します。

●地区計画や特別用途地区等のまちづくりルールによる誘導
●セットバック*①空間の活用ルール化
●無電柱化

快適な歩行空間の実現

現状で実施している歩行者優先区間の維持に加え自動車の進入の制限等を行うことにより、歩きやすい空間をつくります。

●駐車場施策
（駐車場の隔地*②ルール化、
民間駐車場を活用した隔地先駐車場の確保等）
●荷捌き施策
（路上荷捌きスペースの確保等）

現状の歩行者優先区間

＜取り組みのアイデア＞

個性的な店舗づくり

テナントミックス*③事業や出店支援に併せ、店づくり講座の開催や路地を活用したブランディング*④事業の展開により、個性的な店舗づくりを行う。

●様々な分野の専門家による店づくり講座の開催（接客・店舗演出・事業展開等）
●路地ブランディング等によるイメージ戦略
●商店街テナントミックス事業等の実施
●様々な出店形態への支援

誰にでもやさしい 安心・安全な商店街づくり

子どもからお年寄りまで、訪れる誰もが快適に過ごせる安全・安心でやさしい環境づくりを行う。

●歩きやすい舗装
●駐車場・駐輪場の案内
●長時間の踏切待ちを楽しむ工夫
●ゆっくり過ごせるような駐車場運用の工夫
●道路での悪質な販売・宣伝・勧誘の禁止徹底
●ポイ捨て禁止の徹底
●自転車押し歩きルールの導入
●オムツ交換台、授乳室等の子育て支援設備等導入

賑わいを生み出す新たな魅力の創出

●他分野との連携

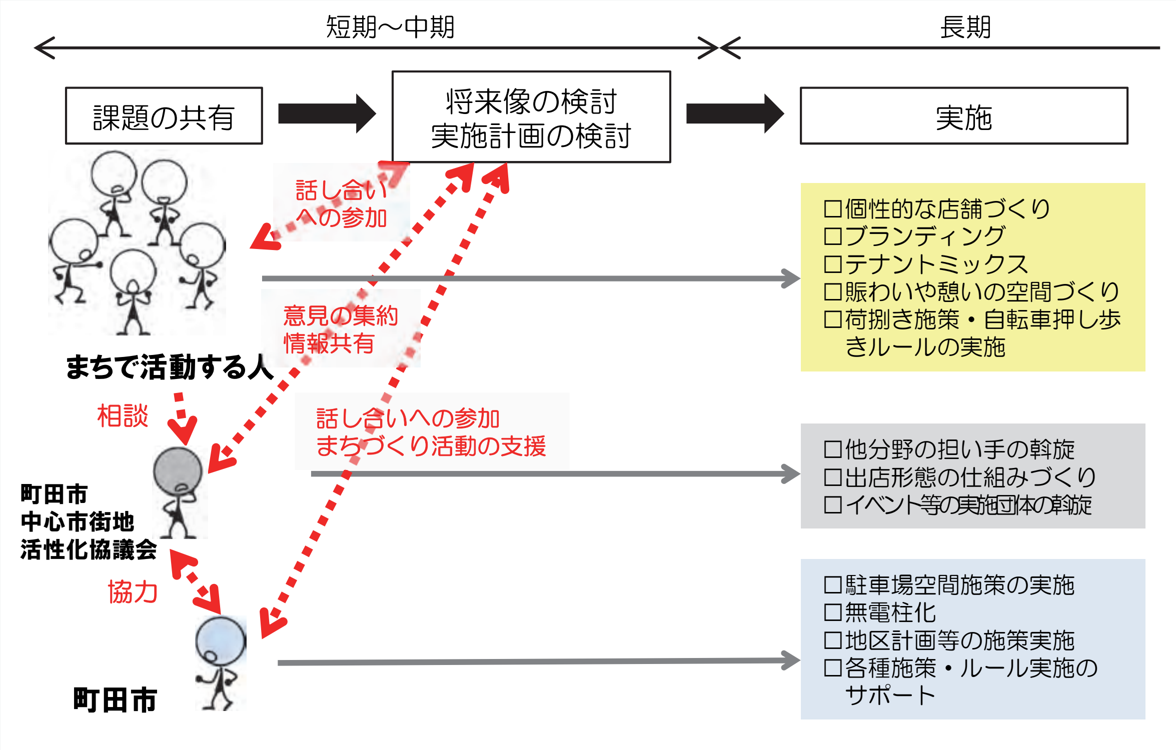
＜学校等との連携＞	＜コラボ店舗・イベント等の展開＞	＜チャレンジショップ等の設置＞
・学校（小学校、中学校、高校、大学、専門学校等）のフィールドとして商店街を活用 ・学生と商業者協働の商店街づくり	・飲食店・雑貨店でのアート作品展示や音楽イベントの実施 ・古着とカフェのコラボレーション*⑥店舗など、町田の強みを活かした店舗展開	・新たに店舗出店を起こそうとする「起業家」の育成・支援を目的とした施設の常設、及びその施設への期間限定での出店募集。
＜商店街で学ぶ＞ ・商店街で朝活*⑤や専門店による講座等を実施	＜イベント連携＞ ・様々なイベントの実施及びそれらを来街者の増加に結び付けるための施策展開	
商店街 × 学校	商店街 × 文化	商店街×起業家
※プロジェクト8に関連	※プロジェクト9に関連	※プロジェクト8に関連

プロジェクトの進め方

□ プロジェクトの進め方

- **町田市中心市街地活性化協議会が主体となり、町田市の協力を得てまちで活動する人とともに将来像の検討を行い共有する**

- **各担い手が順次実現していく**



□ プロジェクトの担い手

★：期待する担い手

【取り組み主体】 町田市中心市街地活性化協議会
└ 商店街全体をプロデュースできる人★
町田市

【関係者】 町田まちづくり公社　関係権利者　商業者　民間事業者
まちで活動する人★(不動産業者　不動産所有者
学校　学生　住民　町田商工会議所　起業家　等)

【町田市関係部署】 経済観光部　都市づくり部　建設部
文化スポーツ振興部　生涯学習部

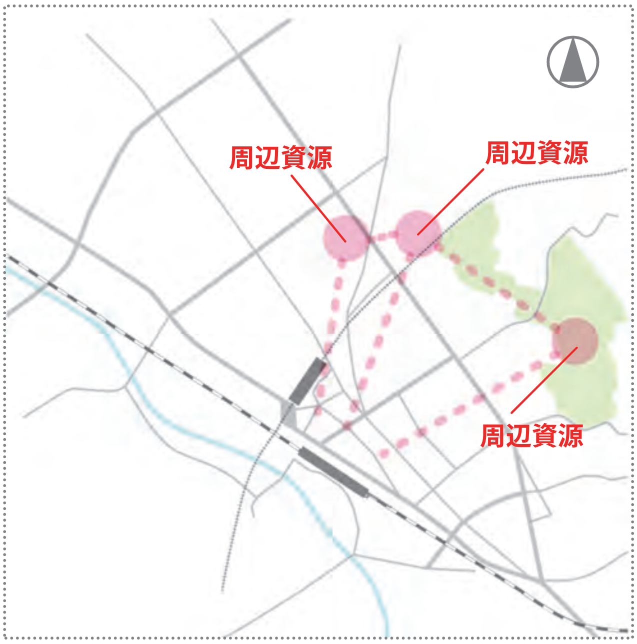
用語解説

＊①セットバック：道路に接した敷地に建物を建築する場合、道路に面する場所から一定の距離をとって建築すること。
＊②駐車場の隔地：駐車場を店舗等の敷地から離れた場所に確保すること。
＊③テナントミックス：様々な業種業態の賃借店舗を組み合わせること。
＊④ブランディング：ここでは、地域独自の特色を、ブランドとして構築して価値を高めること。
＊⑤朝活：始業前の朝の時間を勉強や趣味などの活動にあてること。
＊⑥コラボレーション：複数の立場や人により協力・連携・共同して行われる作業のこと。

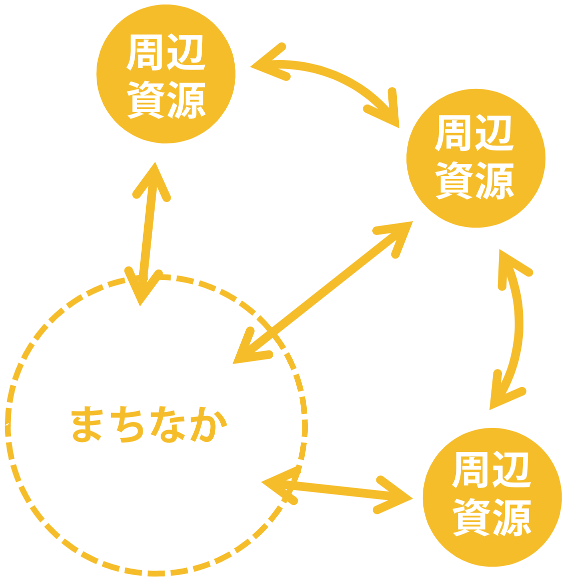
3 周辺資源をみがき まちの魅力として 活かすプロジェクト

町田駅を訪れた人に駅から少し離れた場所でも楽しんでもらうために、周辺にある資源（シバヒロ、芹ヶ谷公園など）の活用やアプローチ*①の充実を図り、まちの魅力として最大限に活かします。

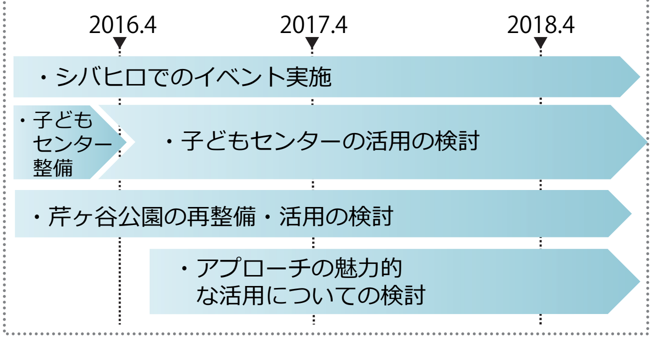
プロジェクトの対象範囲



プロジェクトのイメージ



プロジェクトの当面の主な取り組み



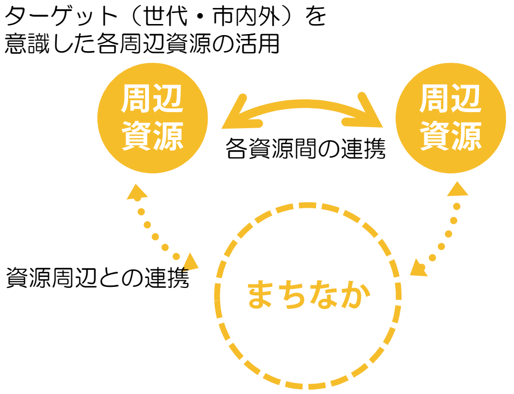
プロジェクトの効果

- 周辺資源の持つ魅力を活かす整備や様々なイベントの開催等により、周辺資源での楽しみが増える → 目指すこと 02 まちに行く目的がたくさんある
- 周辺資源やそのアプローチで過ごす時間が増える → 目指すこと 03 まちの魅力が向上し、ゆっくり過ごせる
- 周辺資源に向かうアプローチや資源をつなぐアプローチが整備され、周辺に行きやすく、また歩きやすくなる → 目指すこと 06 通りが快適で歩いて楽しい

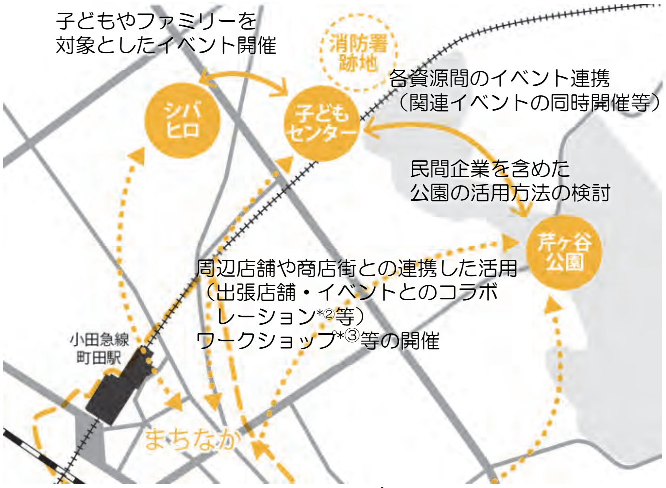
プロジェクトの取り組み

周辺資源のさらなる活用

これまで以上に、周辺にある資源をまちの魅力として活かすために、整備や活用を行います。今ある周辺資源の活用に併せ、それらの付近にも視野を広げた活用を展開していきます。



周辺資源の活用の視点



周辺資源の活用のイメージ

●シバヒロの活用

「まちの魅力を発信し、
賑わいを創出する拠点」

「人々が憩い・交流する
ゆとりの空間」

シバヒロの活用方針／「町田市庁舎跡地活用基本構想」より

●子どもセンターの活用

- 子育て支援機能の拡充
- 中高生の利用施設
- 広域的な利用に対応
- 安全安心な遊びの場
- 利用者のニーズに対応したサービス機能

子どもセンターの活用方針
／「町田市子どもセンター基本構想」より

●芹ヶ谷公園の活用

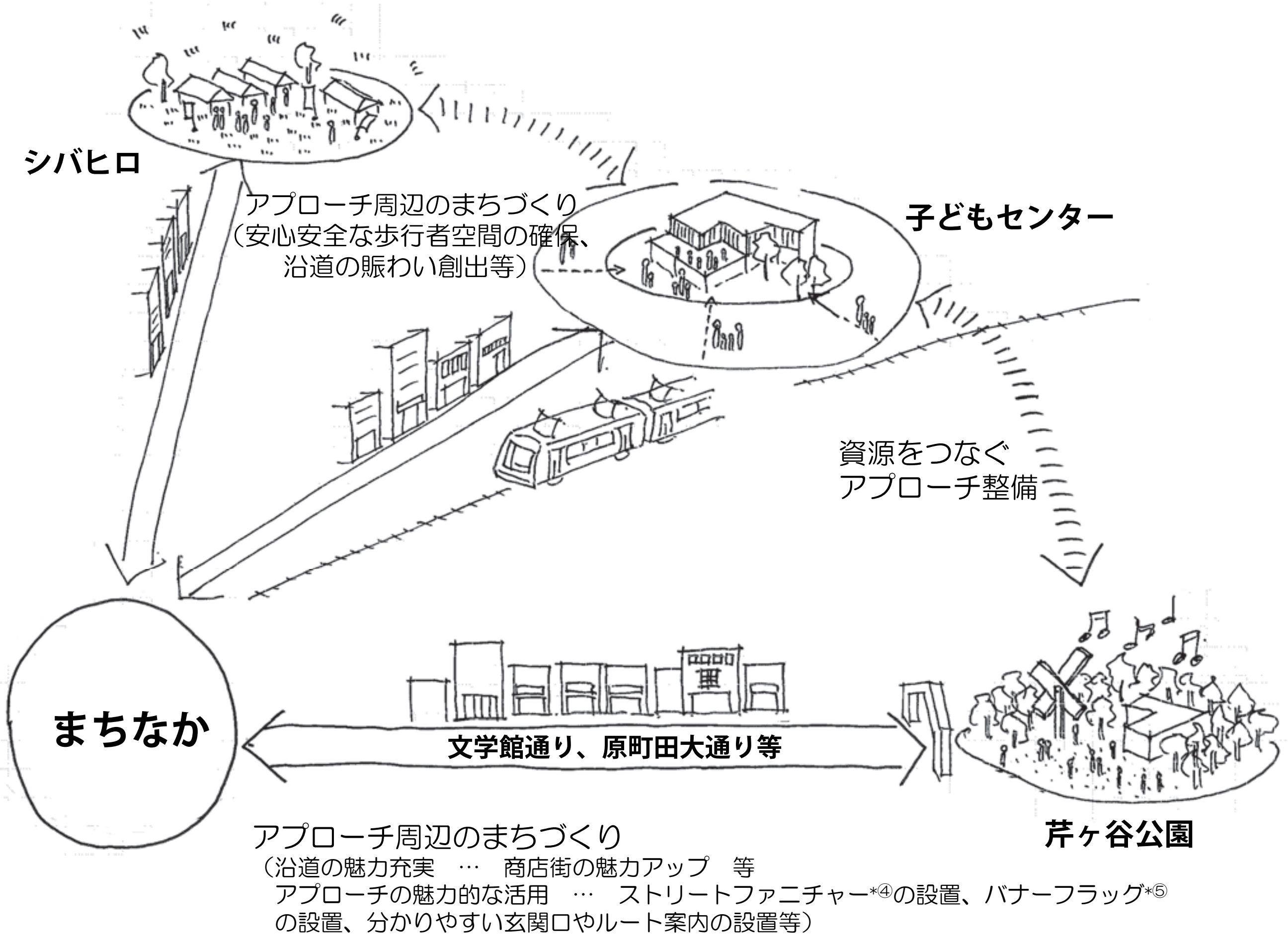
「まちなかで 人と緑が出会い ふれあう 芸術の杜」

- 明るく開放的な公園への再整備
- 未利用地の活用
（芝生広場、カフェ、体験施設等）
- 賑わい施設整備
（イベントステージ、大型複合遊具等）

芹ヶ谷公園の活用方針
／「芹ヶ谷公園再整備計画（素案）」より

周辺資源へのアプローチ*①の充実

周辺資源の魅力を磨き、それらをつなぐ歩行者空間の整備や活用を行うことで、わかりやすく魅力的なアプローチの実現等を図ります。

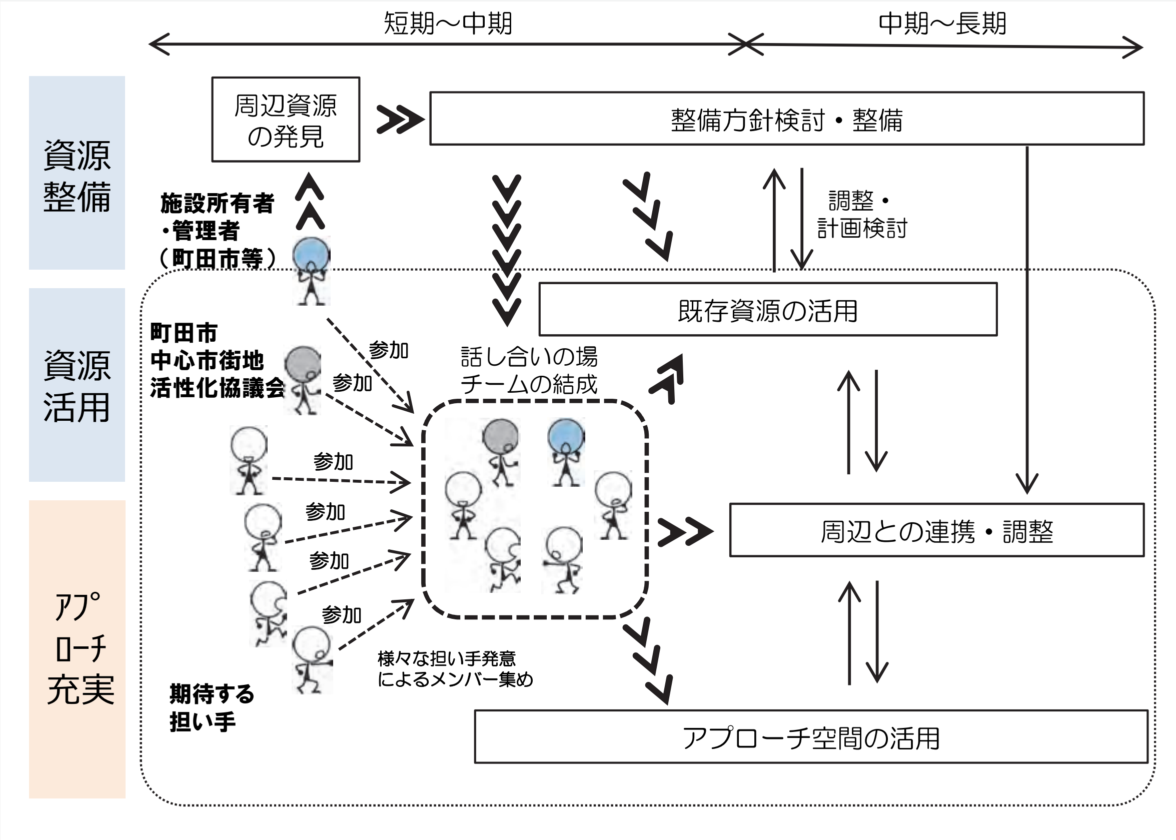


プロジェクトの進め方

□ プロジェクトの進め方

●施設所有者・管理者（町田市等）が、施設の整備を行うとともに、関係者の話し合いを踏まえ、施設間や周辺との連携を図りながら活用を行っていく

●町田市中心市街地活性化協議会等が施設やアプローチ*①の活用方法について話し合いを行う



□ プロジェクトの担い手

★：期待する担い手

【取り組み主体】　町田市　町田市観光コンベンション協会
町田市中心市街地活性化協議会
公共空間活用マネジメント組織★

【関係者】　住民★　学生★　民間事業者★　活動団体★　各分野専門団体★

【町田市関係部署】　都市づくり部　経済観光部　子ども生活部　建設部
文化スポーツ振興部

用語解説

＊①アプローチ：ここでは、目的の場所に向かう道のこと。
＊②コラボレーション：複数の立場や人により協力・連携・共同して行われる作業のこと。
＊③ワークショップ：ここでは、参加者自ら参加・体験して共同で学びあったり何かを生み出したりする場のこと。
＊④ストリートファニチャー：道路、広場などに設置される案内板、ベンチ、街路灯、ゴミ箱等。
＊⑤バナーフラッグ：街路灯などに設置するのぼり・旗などの掲示物。

4 快適で便利な交通ターミナルをつくるプロジェクト

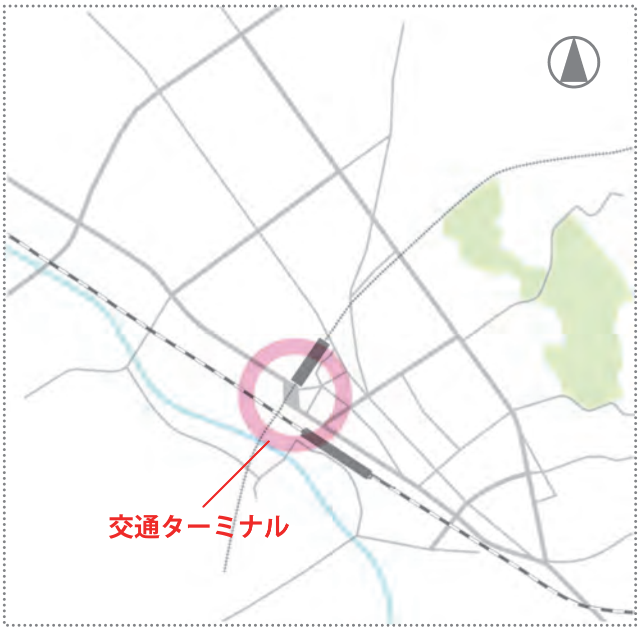
　人が行き交い利用しやすい町田駅とするため、交通ターミナル機能の集約や広域交通機能の充実により、快適で便利な交通ターミナルづくりを行います。

プロジェクトの当面の主な取り組み

2016.4　2017.4　2018.4

- ・交通ターミナル候補地の検討・基本構想の検討
- ・交通ターミナルのわかりやすい案内表示の検討・実施

プロジェクトの対象範囲



プロジェクトのイメージ

空間の不足

乗降場のわかりにくさ

動線の交錯

解消 → 快適で便利な交通ターミナル

プロジェクトの効果

乗り換えしやすい
待合せしやすい
分かりやすい
→ 交通ターミナルになり、利用者が増える
→ 目指すこと 01 駅が快適・便利
→ 目指すこと 02 まちに行く目的がたくさんある

自宅⇔駅
空港・他都市
駅⇔まちなか
→ に行きやすい交通ターミナルになり、便利になる
→ 目指すこと 01 駅が快適・便利
→ 目指すこと 02 まちに行く目的がたくさんある

プロジェクトの取り組み

快適に使える交通ターミナルづくり

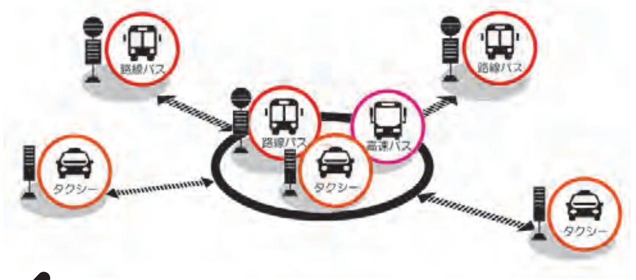
交通ターミナル機能を集約し、老若男女・国内外からの来街者などの誰にでもわかりやすく、乗り換えや待合せがしやすい快適な交通ターミナルをつくります。

●交通ターミナル機能の集約

現在の交通ターミナル機能のイメージ

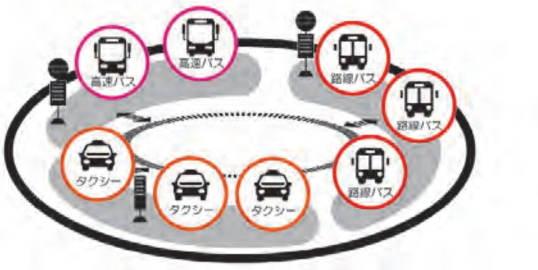
【現在の課題】

- 空間の不足と機能の分散
- 乗降場の位置のわかりにくさ
- 自動車動線や歩行者動線の交錯　等



将来の交通ターミナル機能のイメージ

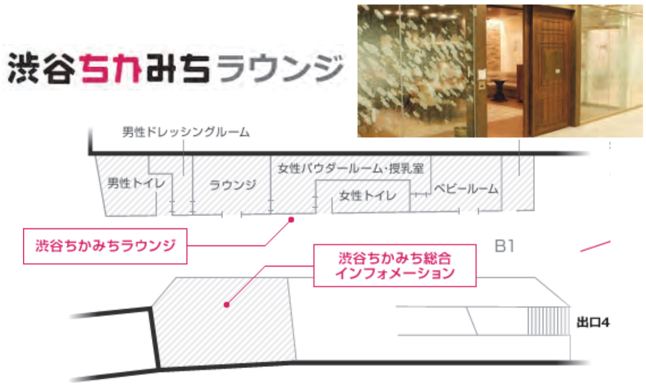
- ●交通ターミナル機能の集約による乗り換え場所・乗り換えルートの整理
- ●交通手段（バス、タクシー、自家用車）ごとに余裕あるスペースの確保
- ●目的に応じた歩行者動線の確保
- ●バリアフリー動線の確保
- ●バス停跡周辺のまちづくり



●乗場の待機スペースの快適化

快適に待機できるベンチ、売店やカフェ、授乳室や更衣室等を備えた待合室等を充実させます。

快適な乗場のイメージ
／西鉄天神高速バスターミナル（福岡市）



様々な機能を備えた待合室／渋谷ちかみちラウンジ

●案内表示の工夫

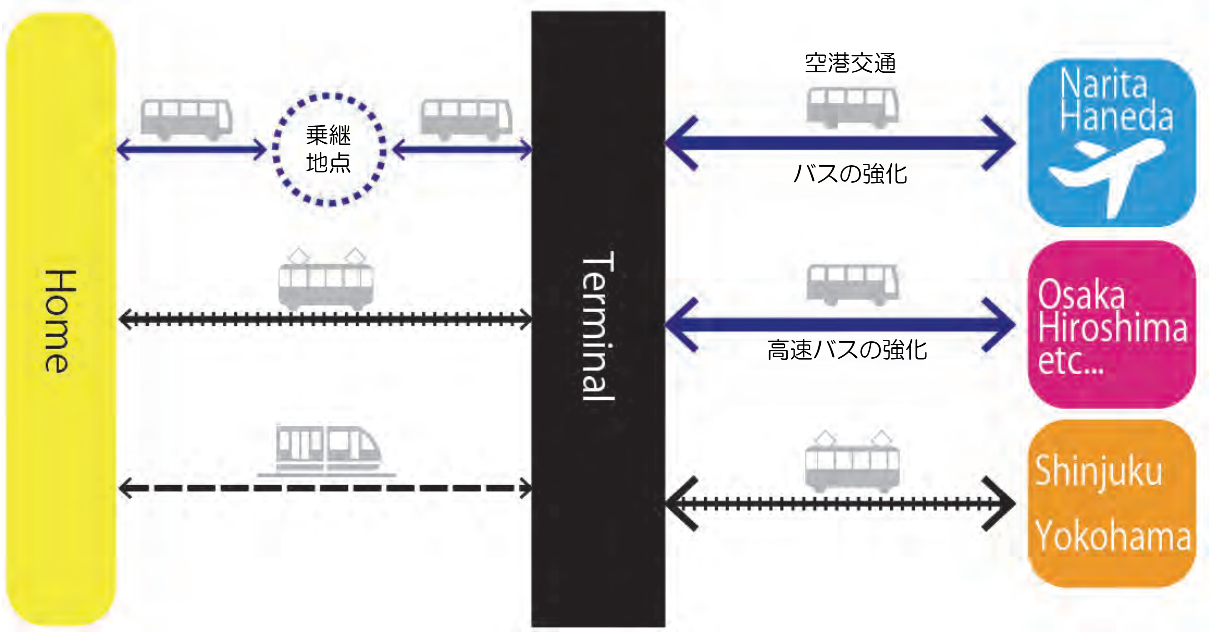
誰もが移動しやすくするため、案内表示のデザインの工夫や多言語化等を行います。

駅やまちなか、交通ターミナル間をスムーズに移動できるようにするため、各所に案内表示を設置します。

案内表示のイメージ／二子玉川ライズ

様々な場所にアクセスしやすい交通ターミナルづくり

　駅に来やすく、駅から様々な場所に行きやすいアクセス性の高い交通ターミナルを目指し、自宅⇔駅、駅⇔広域（空港、他都市）間の交通体系の強化を図ります。

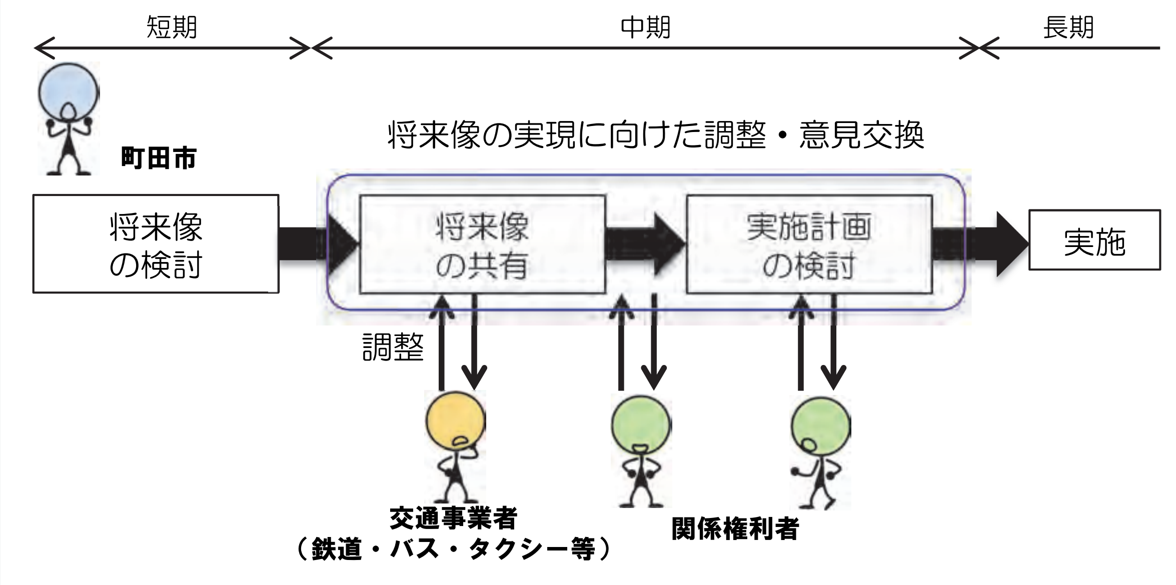


アクセス性の高い交通ターミナルのイメージ

プロジェクトの進め方

□ プロジェクトの進め方

●町田市が将来計画の検討を行い、実施に向け、関係者と調整を図りながら交通事業者とともに実現していく



□ プロジェクトの担い手

【取り組み主体】　町田市　交通事業者（鉄道・バス・タクシー等）

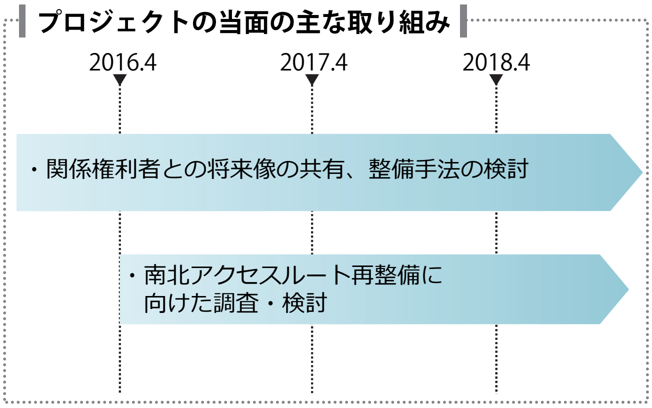
【関係者】　関係権利者

【町田市関係部署】　都市づくり部　建設部

5 南の玄関口
のまちづくりプロジェクト

町田駅南側から多くの人にまちなかへ訪れてもらうために、交通環境の整備やまちなかへのアクセスの強化を通じて、南の玄関口を整えます。

プロジェクトの当面の主な取り組み



プロジェクトの対象範囲

プロジェクトのイメージ

プロジェクトの効果

町田駅南側のイメージを刷新し、駅・まちなかに訪れたくなるような環境が整う。 → 目指すこと 01 駅が快適・便利

駅前にふさわしい、利便性の高い魅力的な生活拠点ができる → 目指すこと 05 ライフスタイルの選択肢がたくさんある

プロジェクトの取り組み

町田駅南側に来街者を迎え入れる玄関口をつくる

町田駅南側、相模原市側からの来街者の増加を目指し、町田駅南側周辺において必要な整備等を行い、南の玄関口をつくります。

●玄関口にふさわしい駅前景観形成

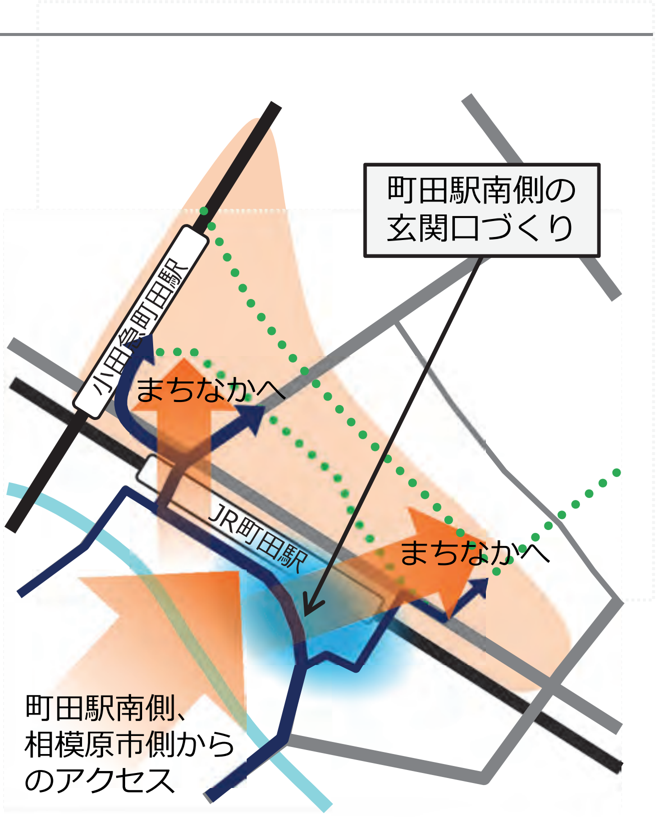
町田駅南側のイメージを刷新し、南の玄関口としてふさわしい緑を感じるシンボル性ある駅前景観を形成します。

●町田駅南側の交通広場整備

相模原市側から町田駅南側へアクセスしやすくするために、交通広場整備を推進します。

●市営駐車場の更新

老朽化した市営駐車場の建替えにより、明るく快適で誰もが利用しやすい駐車場・自転車駐車場を整備します。



現状の市営駐車場

町田駅南側からまちなかへのアクセス強化

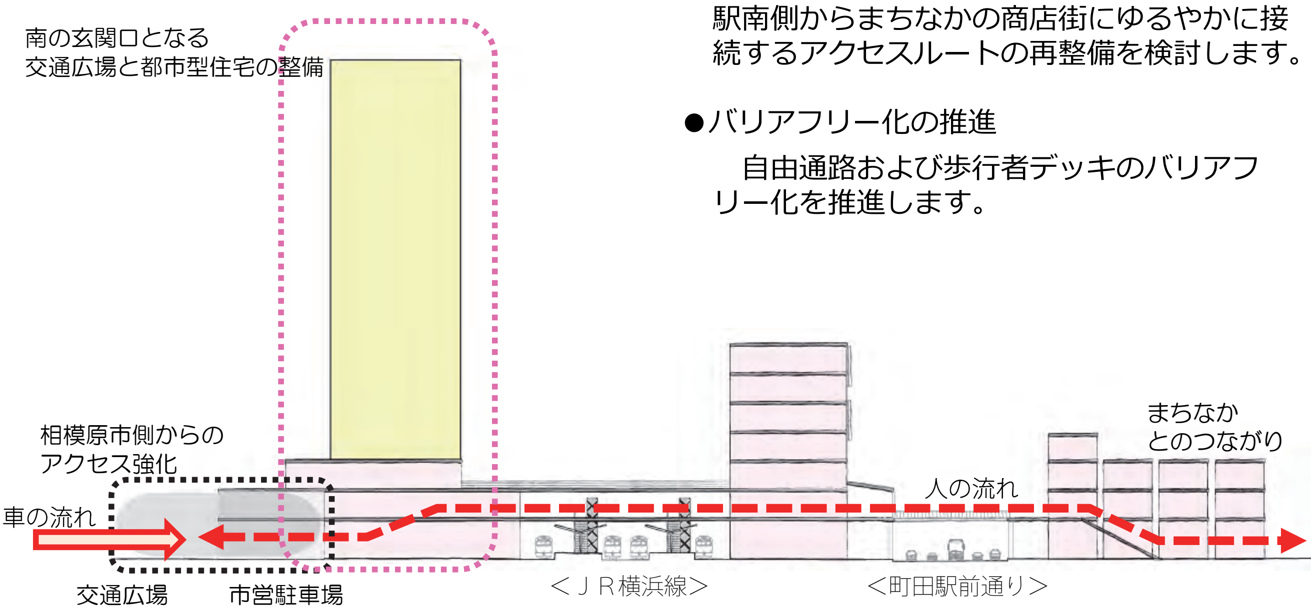
町田駅南側、相模原市側からの人の流れをまちなかへ引き込むため、JR横浜線をスムーズに横断できるような環境整備を行います。

●アクセスルートの再整備

既存自由通路の改良または新設など、町田駅南側からまちなかの商店街にゆるやかに接続するアクセスルートの再整備を検討します。

●バリアフリー化の推進

自由通路および歩行者デッキのバリアフリー化を推進します。



南の玄関口づくりのイメージ

駅前の生活拠点づくり

市営駐車場の更新にあわせて、市街地再開発事業*①等による土地の高度利用を推進し、駅前にふさわしく利便性の高い都市型住宅や、駅前居住を支える生活利便機能を導入し、便利、快適で魅力的な町田らしい生活拠点づくりを推進します。

●都市型住宅の整備

公共交通ネットワークやまちなかにアクセスしやすい利便性をもった都市型住宅を整備します。

●都市型住宅を支える生活サービスの充実

まちなかの文化・交流施設等の既存施設に加えて、駅前居住を支える便利で快適な生活サービス関連施設を誘導します。

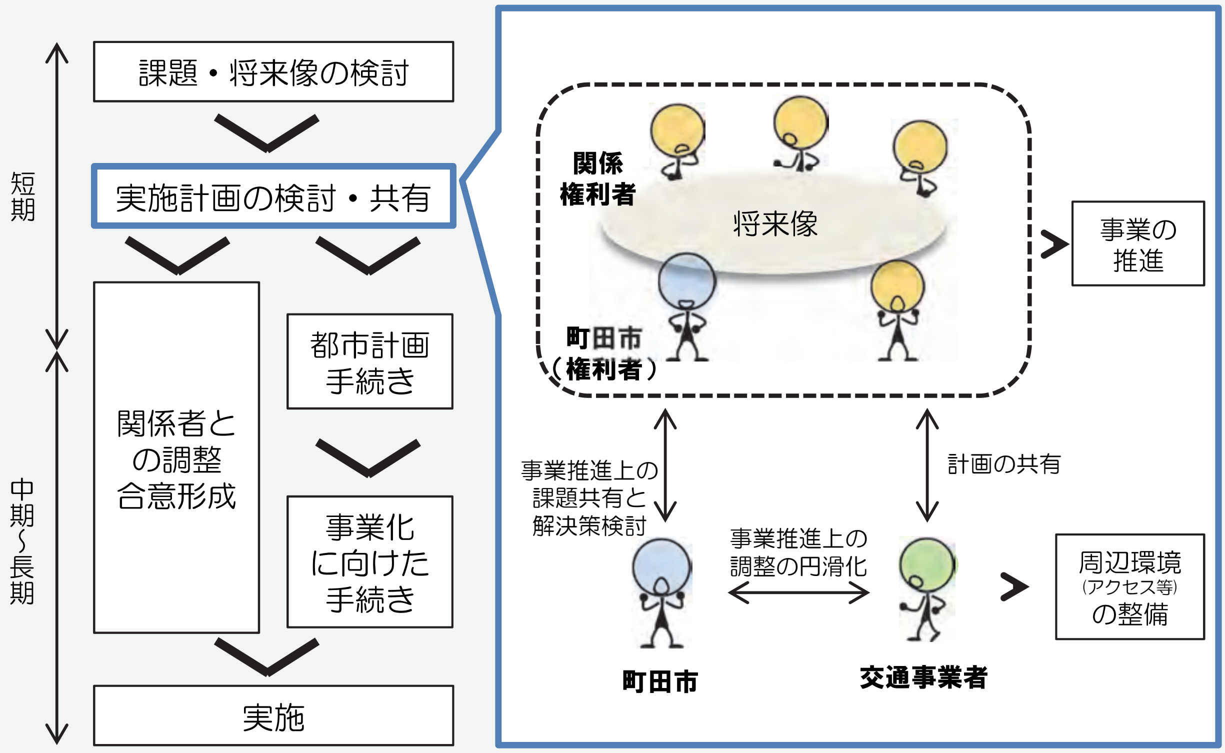
駅前広場を含む駅直結の都市型住宅
／リズモ大泉学園

生活サービス関連施設を含む駅前都市型住宅
／アクウェル武蔵小金井

プロジェクトの進め方

□ プロジェクトの進め方

●町田市や関係権利者が将来像の検討を行い、計画の実現に向けた調整等を行い、整備を進める



□ プロジェクトの担い手

★：期待する担い手

【取り組み主体】　町田市　開発事業施行主体★

【関係者】　交通事業者　関係権利者

【町田市関係部署】　都市づくり部　建設部　経済観光部

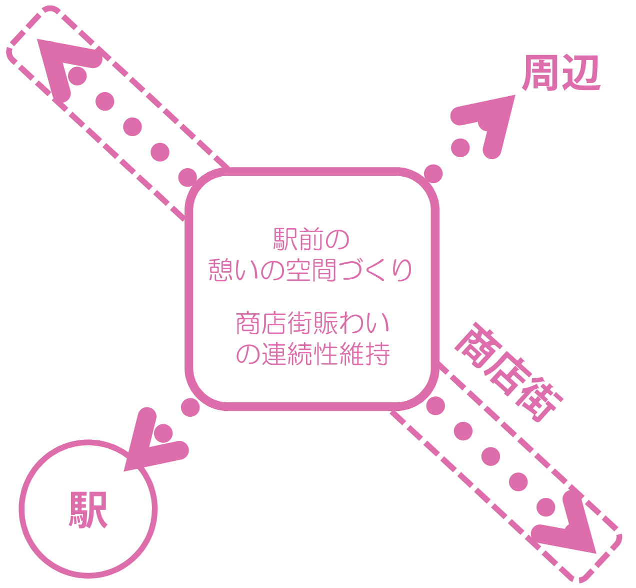
用語解説

＊①市街地再開発事業：都市再開発法に基づき、市街地内の老朽木造建築物が密集している地区等において、細分化された敷地の統合、不燃化された共同建築物の建築、公園、広場、街路等の公共施設の整備等を行うことにより、都市における土地の合理的かつ健全な高度利用と都市機能の更新を図ること。

6 原町田大通り 憩いと賑わい空間 を創造するプロジェクト

来街者が中心市街地でゆっくりと楽しい時間を過ごせるようにするため、原町田大通りを活用し、駅前の憩いの空間づくりや商店街の賑わいを連続させる空間づくりを行います。

プロジェクトのイメージ



プロジェクトの対象範囲

プロジェクトの当面の主な取り組み

取り組み	2016.4	2017.4	2018.4
・将来像の話し合い、大通り活用方法の検討	→	→	→
・実証実験の実施		→	→
・道路占用に関する協議		→	→

プロジェクトの効果

- 駅前から、憩いと賑わいのある印象的な風景が見えるようになる → 目指すこと 01 **駅が快適・便利**
- 様々な活動や賑わいが生まれ、まちに来る楽しみが増えたり、出会い・交流が増える → 目指すこと 02 **まちに行く目的がたくさんある** / 目指すこと 04 **多くの出会い・活動が生まれる**
- 商店街を連続させる憩いの空間、賑わいの空間ができ、まちで過ごす時間が増える → 目指すこと 03 **まちの魅力が向上し、ゆっくり過ごせる**

プロジェクトの目指す将来像

"憩い" × "賑わい" ある 原町田大通り

原町田大通りを活用して新たな憩いの空間・賑わいの空間を生み出し、商店街の賑わいのつながりの強化や駅前から見える印象的な景観を形成することで、「町田の顔」に相応しい大通りの実現を目指します。

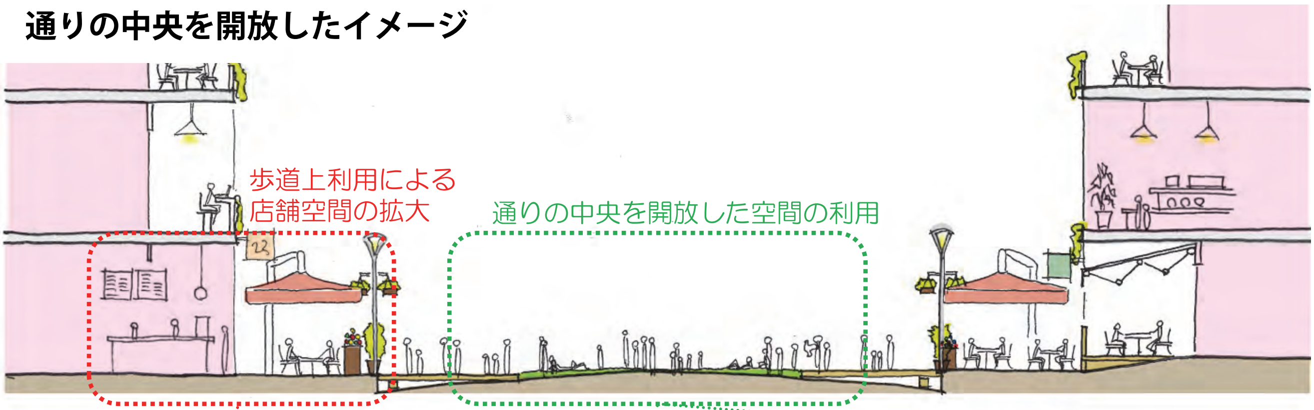
歩道沿いの賑わいを強化し、道路両側の距離感を近づけたイメージ

歩道に設置された店舗のイメージ
／札幌大通り

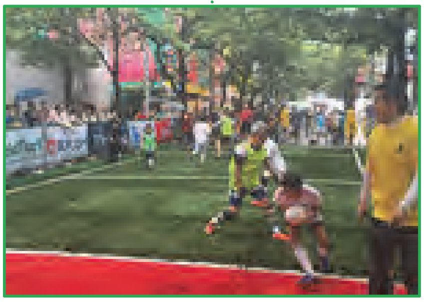
マルシェ*①やキッチンカーのイメージ
／東京国際フォーラム

休憩スペースのイメージ
／京都　四条通

通りの中央を開放したイメージ



歩道上の店舗空間利用イメージ
／横浜　日本大通り


道路上におけるスポーツイベント
のイメージ／日本橋

通りを解放した芝生空間
のイメージ／大阪　御堂筋

プロジェクトの取り組み

原町田大通りを活用した憩いの空間づくり

原町田大通りを活用して、緑豊かな景観の形成や、ゆったりと過ごせる空間づくりを行います。

●緑豊富な景観づくり
●モノレールの導入を見据えた空間づくり
●ゆったりと過ごせる空間づくり
（広場・ベンチ・休憩場所・木陰の確保、違法駐車の改善、喫煙所位置の検討等）

現在の原町田大通り

原町田大通りを活用した賑わいの創出

道路占用やイベントの実施を継続的に行うことで、駅前に新たな賑わいを創出するとともに、商店街の賑わいを連続させます。

●社会実験→道路占用による賑わい活用の実施
●イベントの実施
●賑わいが外に溢れ出すような沿道建物の空間づくり

<道路占用やイベントのアイデア>

・大規模なイベントの開催
音楽祭／ビール祭り／映画祭／パレード／展覧会／四季のイベント／スポーツ　等

・商店街と連携した販売イベントの開催
マルシェ*①／朝市／オープンカフェ／仮設店舗　等

・芹ヶ谷公園や美術館へ誘導する工夫
アート　等

STEP1 社会実験の実施⇒効果検証
STEP 2 道路占用特例による常設
STEP 3 イベントの継続実施

「スプレムータon御堂筋」社会実験
／撮影：岸田文夫氏
出典：都市環境デザイン会議関西ブロック
ホームページ

オープンカフェ
／出典：新宿区ホームページ

アート展
／出典：新宿区ホームページ

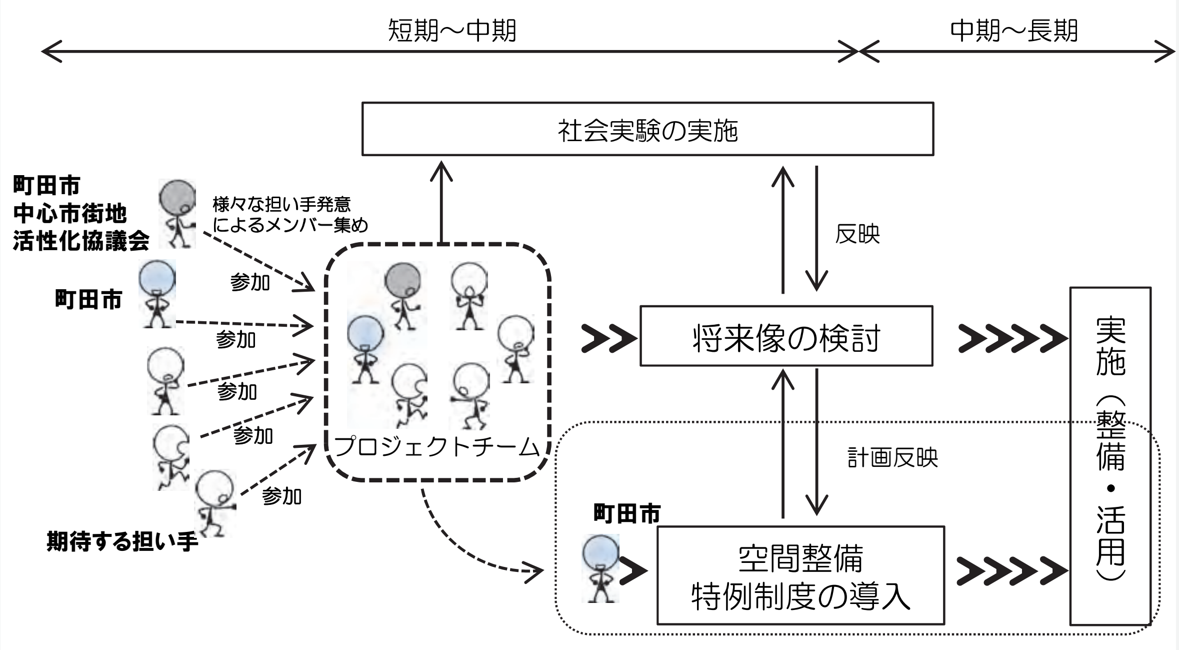
社会実験→道路占用による賑わい活用の実施イメージ

プロジェクトの進め方

□ プロジェクトの進め方

●町田市中心市街地活性化協議会が、様々な担い手を巻き込みながら社会実験の実施等を通じて将来像を検討する

●町田市が、特例制度の導入や空間整備等により、取り組みを積極的に後押しする



□ プロジェクトの担い手

★：期待する担い手

【取り組み主体】　町田市中心市街地活性化協議会
公共空間活用マネジメント組織★

【関係者】　商業者★　活動団体★　各分野専門団体★　学生★　個人★
企業★

【町田市関係部署】　経済観光部　都市づくり部　建設部

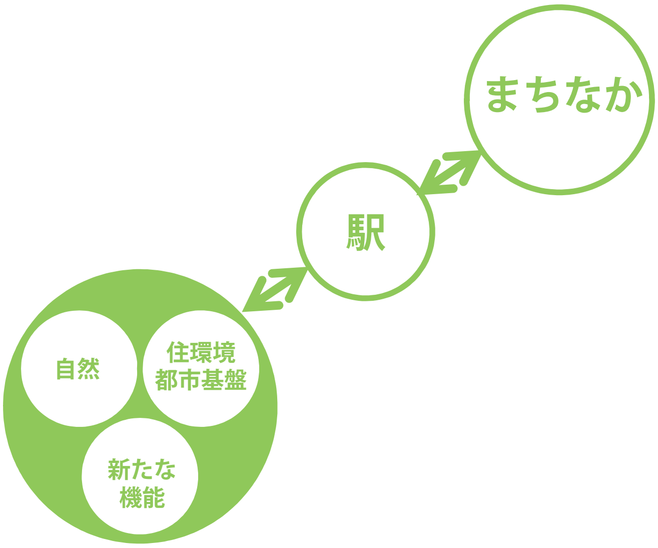
用語解説

＊①マルシェ：ここでは、テント等を使った仮設の直売所のこと。

7 駅からつながる 水と緑の新たな都市空間 づくりプロジェクト

駅近くの自然豊かな空間を中心市街地の新たな魅力として活用するために、既存団地の再生を契機として計画的な土地利用を進め、水と緑の新たな都市空間づくりを行います。

プロジェクトのイメージ



プロジェクトの対象範囲

プロジェクトの当面の主な取り組み

2016.4 2017.4 2018.4

・取り組み主体による将来像の検討・共有

プロジェクトの効果

まちなかとは違った新たな機能・魅力が増え、来街者が増える → 目指すこと 02 まちに行く目的がたくさんある

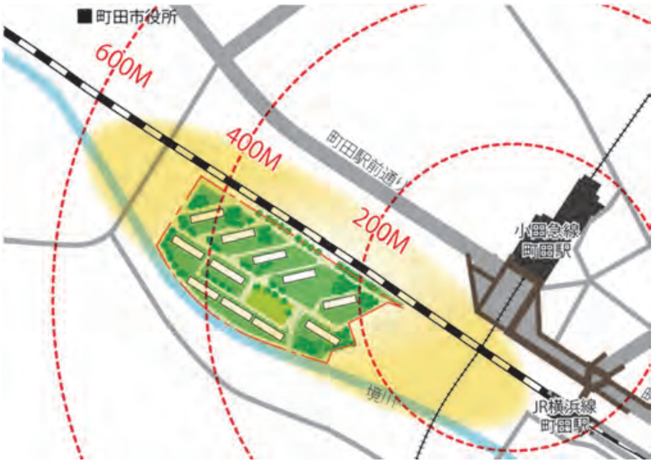
駅からつながる水と緑を感じる空間ができ、中心市街地で過ごす時間が増える → 目指すこと 03 まちの魅力が向上し、ゆっくり過ごせる

駅の近くにありながら、緑・自然を感じることのできる豊かな住まいが増える → 目指すこと 05 ライフスタイルの選択肢がたくさんある

プロジェクトの取り組み

駅近くの新たな都市空間づくり

JR横浜線と小田急線と境川に囲まれた約5.5 haの地区（森野住宅周辺）において、地区内の団地再生を契機として計画的に空間を活用することで、まちなかとは違った中心市街地の新たな魅力づくりを行います。



●駅近くの自然を活かした空間づくり

境川をはじめとした、地区内の自然を生かした空間づくりを行います。

●自然を活かした空間の例
- 親水空間（親水広場、ボードウォーク*①等）
- 広場（憩い広場、芝生広場、子どもの遊び場等）
- スポーツができる空間（ランニングコース、球技場等）
- 災害時有効な広場　等

ボードウォークのイメージ／天王洲アイル

芝生広場のイメージ／東京ミッドタウン

ランニングコースのイメージ／駒沢オリンピック公園

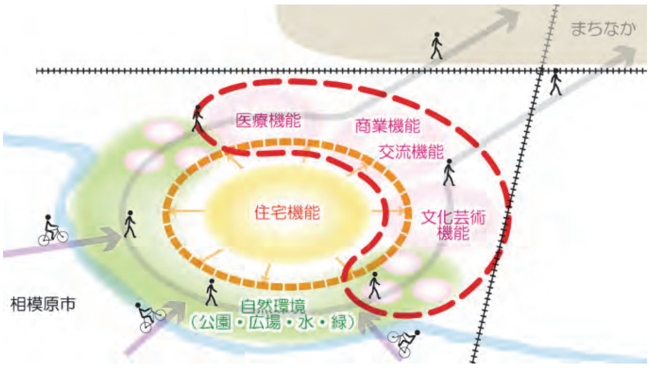
災害時有効な広場のイメージ／横浜　ガス山公園

写真提供：公益財団法人東京都公園協会

●まちなかにない新たな機能の導入

まちなかや駅に近い希少な空間を活かし、今の中心市街地にはない新たな機能の導入を図ります。

●新たな機能の例
- 商業機能　…映画館　等
- 文化芸術機能…ホール、劇場、博物館　等
- 交流機能　…コンベンション*②施設、教育施設、ホテル　等
- 医療機能　…病院、クリニック　等



新たな機能の導入のイメージ

【事例】様々な機能が導入されている駅前まちづくりの例　～柏の葉のまちづくり～

1	2	3
4	5	6

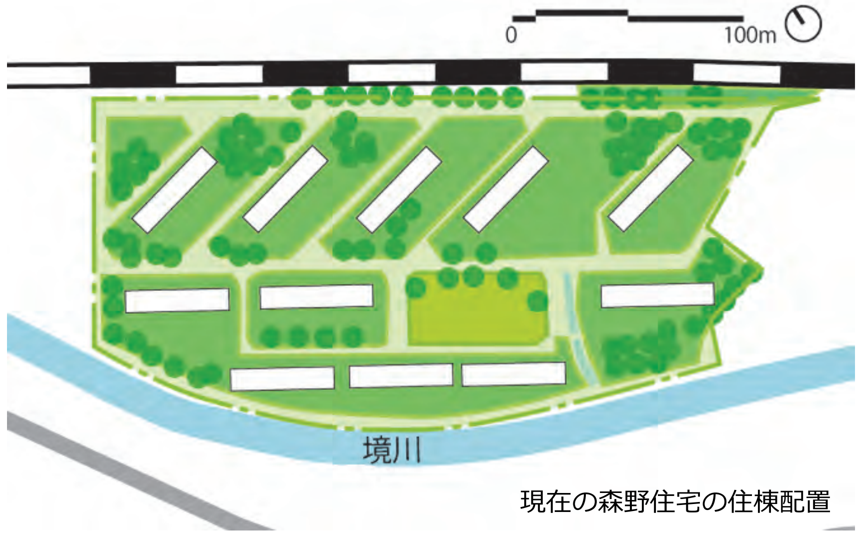
1.イノベーションラボ*③
2.商業・アミューズメント
3.健康づくり拠点
4.会議室・会議場
5.大学・研究関連施設
6.ホテル

団地再生に伴う住環境・都市基盤の整備

築50年を経過する森野住宅の団地再生の計画検討とあわせて、住環境整備や都市基盤整備の検討を行います。

●住環境整備

東京都住宅供給公社の「森野住宅」の建替えを通じ、様々な人が過ごしやすく、駅近に相応しい住環境を整備します。

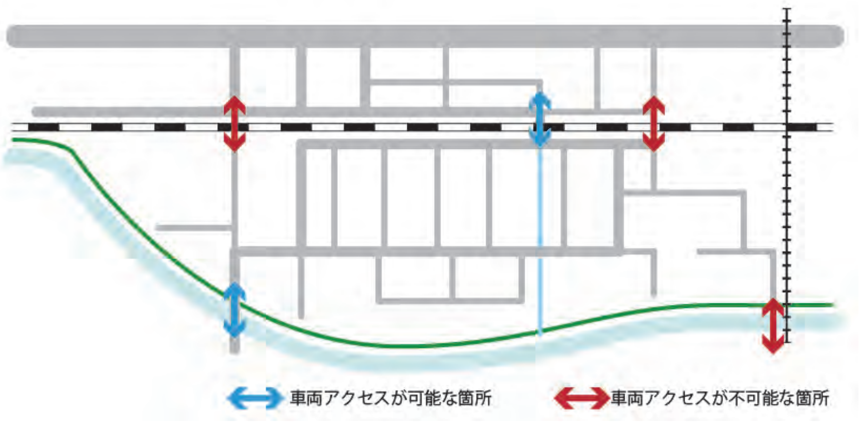


現在の森野住宅の住棟配置

団地概要：
　敷地面積　約2.9ha／戸数　約430戸／昭和36～37年建設

●都市基盤整備

地区内から駅前に直結するデッキ等の歩行者アクセス、地区外からの自動車・歩行者アクセス、地区内の道路について検討し、必要に応じて整備します。

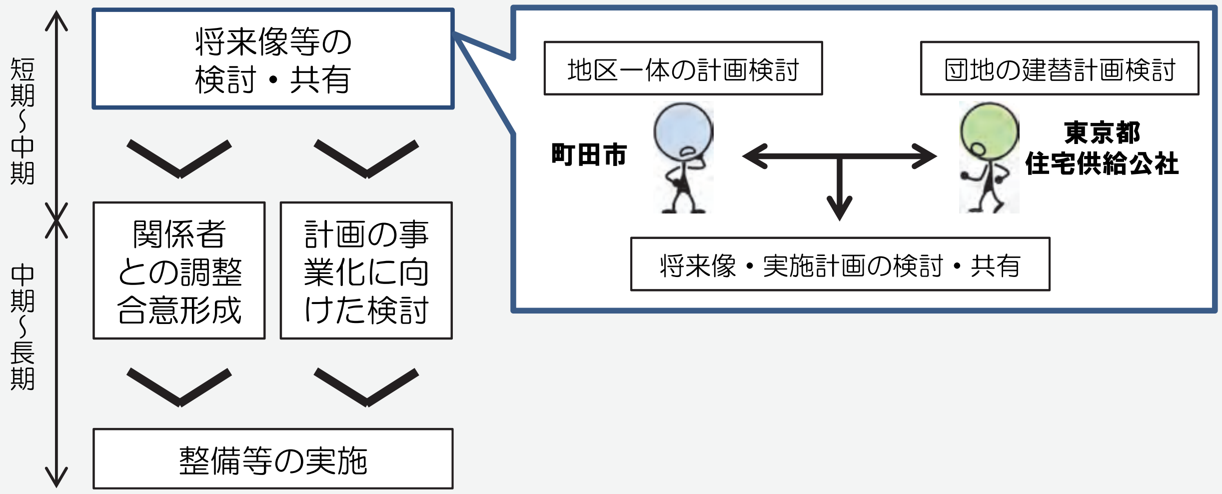


現在の森野周辺地区のアクセス道路の概況

プロジェクトの進め方

□ プロジェクトの進め方

●町田市と東京都住宅供給公社が将来像を検討・共有し、実現に向けた合意形成等を進めていく



□ プロジェクトの担い手

★：期待する担い手

【取り組み主体】　町田市　東京都住宅供給公社　開発事業施行主体★

【関係者】　関係権利者　交通事業者

【町田市関係部署】　都市づくり部　建設部

用語解説

＊①ボードウォーク：砂浜、河岸などに設置される木の板張りによる遊歩道。
＊②コンベンション：展示会や見本市や会議のこと。
＊③イノベーションラボ:企業や個人が集まり交流を通じて新産業を生み出す技術革新の拠点。

8 様々なライフスタイルを支える多機能な場を育むプロジェクト

中心市街地で充実した暮らしを楽しめるようにするため、幅広い人たちが活躍できる場の提供や快適な住まいづくりの提案を通じて、様々なライフスタイルを支えます。

プロジェクトの当面の主な取り組み

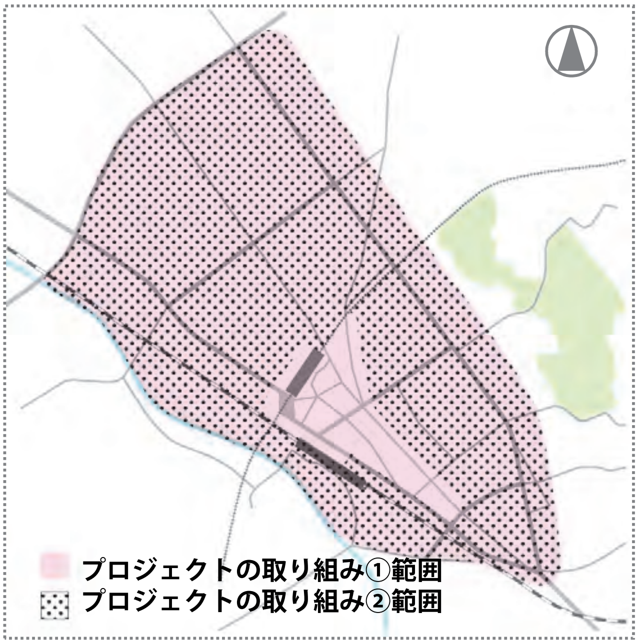
2016.4　2017.4　2018.4

- 町田商工会議所・町田新産業創造センター等による、ビジネス活動の拡大
- さがまち学生Clubによる若い世代の活躍の場づくり

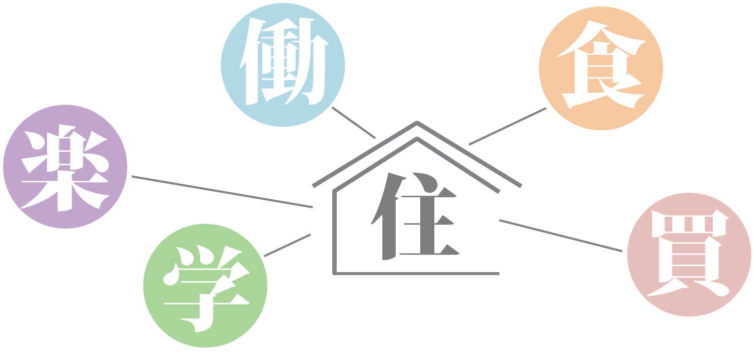
生活を支える機能の導入推進

- 町田市子ども・子育て支援事業計画に基づく事業実施
- 町田市介護保険事業計画に基づく事業実施

プロジェクトの対象範囲



プロジェクトのイメージ



プロジェクトの効果

新しいビジネスや活動の場と機会が増える → 目指すこと 04 多くの出会い・活動が生まれる

日常の過ごし方や良好な住環境の住まいが増える → 目指すこと 05 ライフスタイルの選択肢がたくさんある

プロジェクトの取り組み①

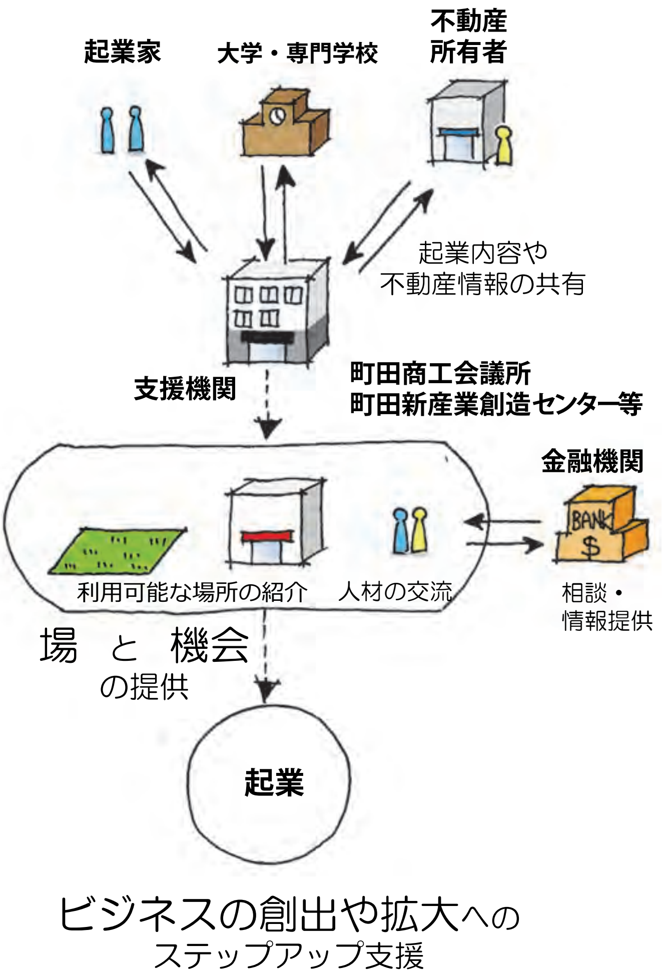
将来の担い手の活躍の機会づくり

将来のまちづくりの担い手となり得る起業家や若い世代が活躍できる機会をつくります。

●ビジネスの創出や拡大の仕組みづくり

支援機関（町田商工会議所、町田新産業創造センター*①等のインキュベーション*②施設）⇔ 起業家・大学・専門学校・不動産所有者・金融機関・専門家の情報共有により、支援機関がビジネス創出の“場”と“機会”と“情報”の集積を図り、町田におけるビジネスの創出や拡大を推進します。

- 店舗、事務所として利用可能な場所の紹介
- 人材交流会の実施
- ビジネスの創出や拡大へのステップアップ支援
- 事業者に寄り添った経営相談等の支援（融資斡旋・診断分析・情報提供）
- 周辺不動産の情報収集
- 講習・勉強会支援



セミナーの実施
／町田商工会議所

シェアオフィス*③のイメージ
／町田新産業創造センター

●若い世代の活躍の機会づくり

次代のまちづくりの担い手となる、若い世代（小学校、中学校、高校、大学、専門学校の学生等）が早くからまちづくりに参加し、力を発揮できる機会づくりを促します。

【事例】町田市で既に取り組んでいる若い世代の活躍の機会づくりの例

～小中学生の職場体験～

小中学生の将来のやりたいこと探しを目的に、地域の職場で職場体験する。

小学生の職場体験の様子

～さがまち学生Club～

まちづくりの担い手を育成することを目的に、相模原・町田地域の学生がまちづくり活動を企画・実施する地域活性化の取り組み。

さがまち学生Clubの活動の様子

<取り組みのアイデア>

様々なライフスタイルを生みだす個性的な不動産活用の仕組みづくり

中心市街地には、近隣で働く人や住まう人に向けた個性ある飲食店や職場などの様々な機能が共存し、町田らしいライフスタイルを生み出している。一方で、町田固有の店舗が減り、町田らしい特色が弱まりつつもある。

これらの現状を踏まえ、今後も多様なライフスタイルを生み出しつつ町田らしさを出せるような、不動産活用の仕組みづくりを行う。

●新しい仕組みによる不動産活用

町田にしかない個性的な店舗づくりやライフスタイルを提供するような場所づくりのために、不動産活用を事業化へと結びつけるとともに、将来の事業者を育成するような仕組みづくりを行う。

<不動産活用の例>
- SOHO *④・シェアハウス* ⑤・シェアオフィス*③
- シェアアトリエ* ⑥・一軒家レストラン
- ローカルブランド*⑦の発信場所　等

【事例】リノベーションスクール@北九州

リノベーションスクール@北九州は同市の中心商店街の再生、空き店舗を利用した事業の内容からリノベーション*⑧の設計までの一連を対象とした短期集中のワークショップ。そこで生まれた提案を下敷きに実際に事業化するためのまちづくり会社が設立され、アイデアを生み出すことと実行という、１つの流れを作り出している。

写真提供：一般社団法人リノベーションまちづくりセンター

図版提供：一般社団法人リノベーションまちづくりセンター

●新しい視点での不動産仲介

新しい貸し方をしたい不動産所有者を発掘し、ライフスタイルを提案するような不動産仲介を行うことで、不動産の価値の向上と、幅広いライフスタイルを望む人の呼び込みを図る。

不動産とライフスタイルの提案イメージ

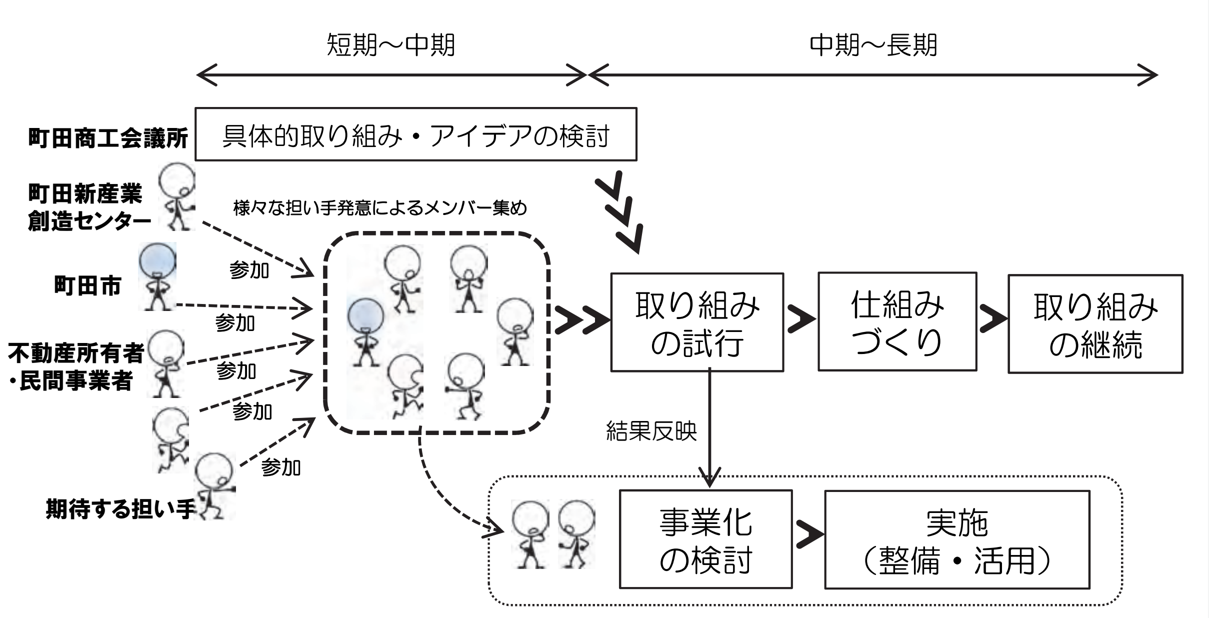
【事例】リアルローカル

ローカルへの移住の選択肢を提供するメディア。仕事の情報だけではなくて、仲間がいる・見つけられる「イベント」の情報、移住を考える時に宿り木になるような「場所」の情報、ローカルに移動しても自分のつくっているものを人に売れる「モノ」のマーケット、などリアルなローカル情報を全国に伝えるメディア。

プロジェクトの進め方①

□ プロジェクトの進め方

●関係ある担い手を結びつけながら、仕組みづくりを進めていく



□ プロジェクトの担い手

★：期待する担い手

【取り組み主体】　町田商工会議所　町田新産業創造センター＊①　町田市
起業を支援する民間組織★　さがまちコンソーシアム★
不動産活用の仕組みを作る組織★

【関係者】　不動産所有者★　民間事業者★　起業家★　金融機関★
学校★　学生★　不動産業者★

【町田市関係部署】　経済観光部　都市づくり部　生涯学習部　学校教育部

用語解説

＊①町田新産業創造センター:意欲的な成長を目指す事業者に、調査、販路拡大、経営相談等の多面的な支援を行うことで、全国で活躍できる独創的・個性的な企業の創出を目指す施設。
＊②インキュベーション:ここでは、起業家の育成や、新しいビジネスを支援すること。
＊③シェアオフィス:一つのスペースを複数の利用者で共有するオフィス。
＊④ＳＯＨＯ:小さなオフィスや自宅等で働くワークスタイルのこと（Small Office/Home Officeの略）。
＊⑤シェアハウス:一つの賃貸住宅を複数人で共有して暮らすこと。
＊⑥シェアアトリエ:一つのスペースを複数の利用者で共有するアトリエ。
＊⑦ローカルブランド:ここでは、限定された地域のみで認知され販売を行っている商品などのブランドのこと。
＊⑧リノベーション:中古住宅や店舗を現代のライフスタイルに合わせて改修し、価値を高めること。

プロジェクトの取り組み②

生活を支える機能の導入推進

中心市街地への子育て世帯の転入や高齢化に備え、子育て支援施設の導入や地域包括ケアシステム*⑨の推進を行います。

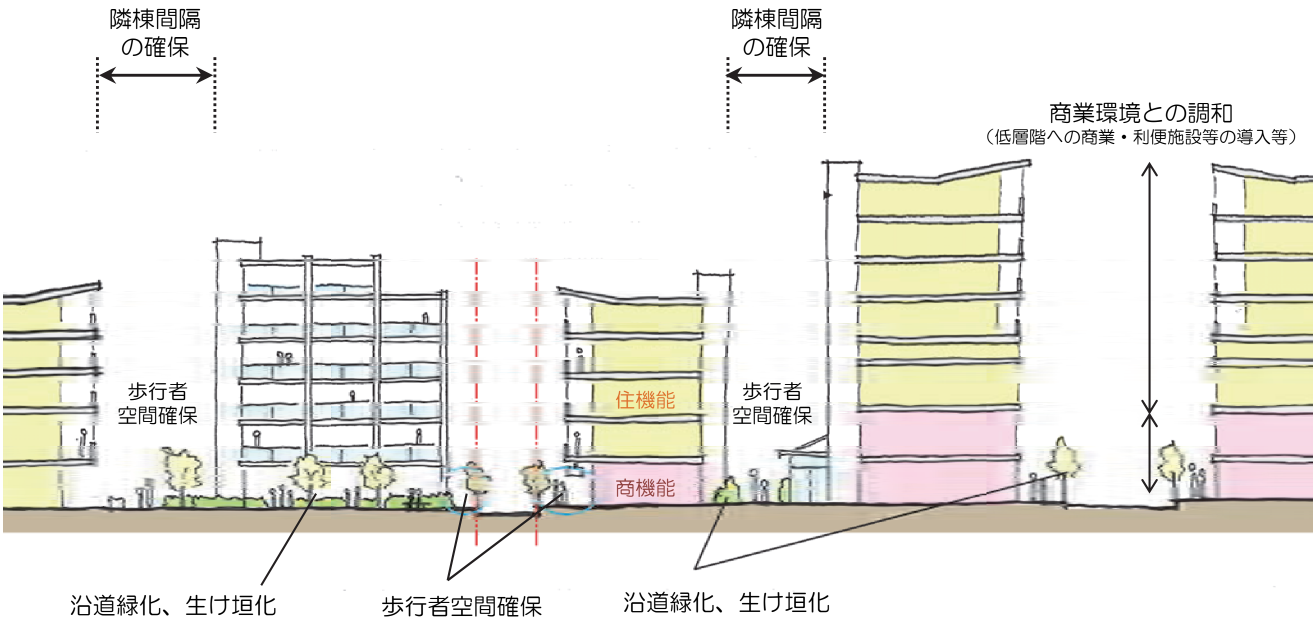
- ●保育施設等の子育て支援施設の導入
- ●地域包括ケアシステムの推進
  - ・介護予防や生活支援の推進
  - ・在宅医療・介護連携の推進
  - ・在宅介護を支える介護保険サービスの整備促進

子育て支援施設のイメージ／市立町田保育園

商業環境と調和した、みどりある良好な住宅の誘導

周辺環境に配慮した良好な都市型住宅づくりを誘導します。

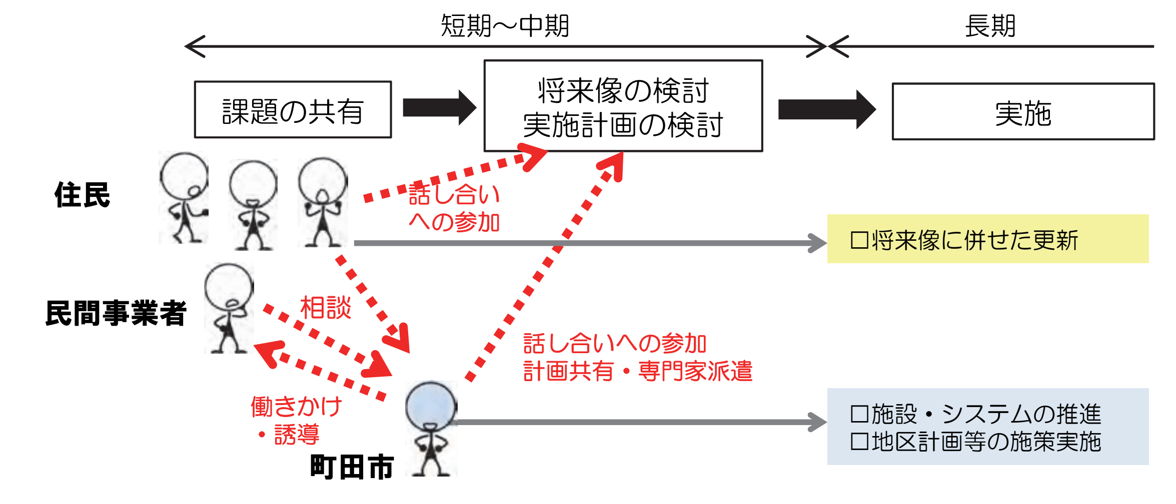
- ●隣棟間隔の確保
- ●歩行者空間の確保
- ●沿道緑化、生け垣化
- ●低層階への商業・利便施設等の導入



プロジェクトの進め方②

□ プロジェクトの進め方

● 町田市が良好な住宅づくりの実現に向けた働きかけや支援施設・システムの推進、地域発意の良好な住宅づくりの提案の実現に向けた支援を行う



□ プロジェクトの担い手

★：期待する担い手

【取り組み主体】　町田市

【関係者】　住民★　民間事業者★

【町田市関係部署】　子ども生活部　いきいき生活部　都市づくり部

用語解説

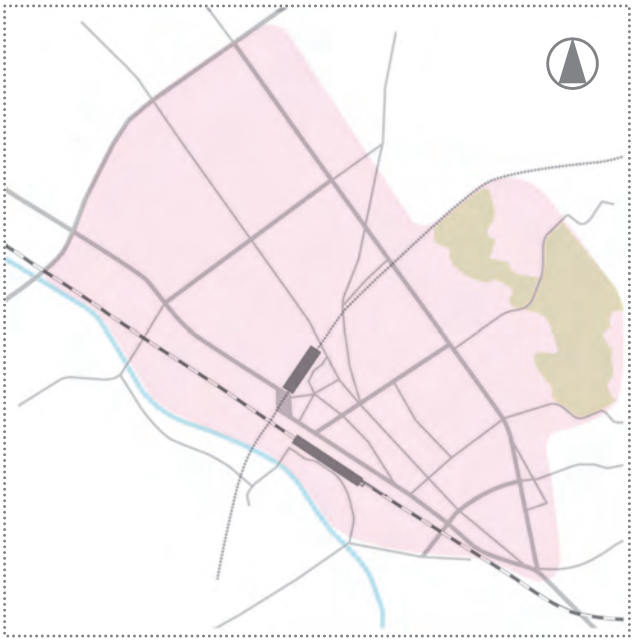
＊⑨地域包括ケアシステム：高齢者が要介護状態になっても可能な限り住み慣れた地域において継続して生活できるよう、医療、介護、介護予防、住まい、生活支援の５つのサービスを一体化して包括的な支援・サービスを提供する体制のこと。

9 町田発 アート・カルチャーを楽しむプロジェクト

　多様な楽しさや感動を味わえるように、新たな取り組み、文化芸術拠点の整備等を行い、町田発のアート・カルチャーを楽しめるまちにします。

プロジェクトのイメージ

プロジェクトの対象範囲



プロジェクトの当面の主な取り組み

2016.4　2017.4　2018.4

芹ヶ谷公園の再整備
・国際工芸美術館の整備の検討
・高ヶ坂縄文時代遺跡ガイダンス施設の整備の検討

・文化芸術ホール等のあり方検討

・学生と連携したイベントの企画・開催

プロジェクトの効果

様々な場所でアート・カルチャーにふれあう機会が増える
→ 目指すこと 02 まちに行く目的がたくさんある

活動を発表・発信する場が増え、様々な交流や新たな活動が生まれる
→ 目指すこと 04 多くの出会い・活動が生まれる

プロジェクトの取り組み

アート・カルチャーの拠点づくり

（仮称）国際工芸美術館や（仮称）高ヶ坂縄文時代遺跡ガイダンス施設、文化芸術ホールの整備によるアート・カルチャーの施設づくりや芹ヶ谷公園の再整備を進めていきます。

● （仮称）国際工芸美術館の整備の検討

「良質な文化に触れる機会を提供し、
まちの賑わいに貢献していく拠点」

・周辺の文化施設や中心市街地の商店街などと連携し、まちの魅力向上、まちの賑わい創出につなげる（仮称）国際工芸美術館の整備の検討

コレクション／（仮称）国際工芸美術館整備基本計画

● （仮称）高ヶ坂縄文時代遺跡ガイダンス施設の整備の検討

「町田が誇る縄文文化の造形美にふれあい、
まちのルーツを体感できる拠点」

・国史跡高ヶ坂石器時代遺跡の展示を中心に町田の優れた縄文文化を市内外へ発信する（仮称）高ヶ坂縄文時代遺跡ガイダンス施設の整備の検討

深鉢形土器

高ヶ坂石器時代遺跡

●芹ヶ谷公園の再整備

「まちなかで 人と緑が出会い
ふれあう 芸術の杜」

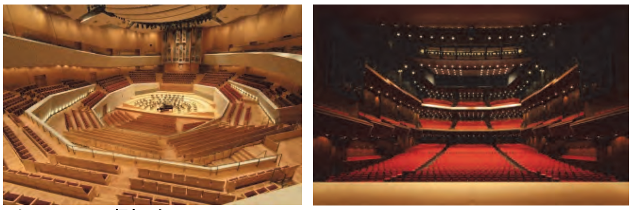
・散策しながら芸術作品にふれあえるアート展示スペースの設置
・文化・芸術を中心としたイベントステージの整備

芹ヶ谷公園再整備基本計画図（素案）／
芹ヶ谷公園再整備計画（素案）

●文化芸術ホールの検討

「まちの魅力を発信し、
賑わいを創出する拠点」

・音楽や演劇、イベントなど多様な使途に対応できる新たな文化芸術ホールの検討

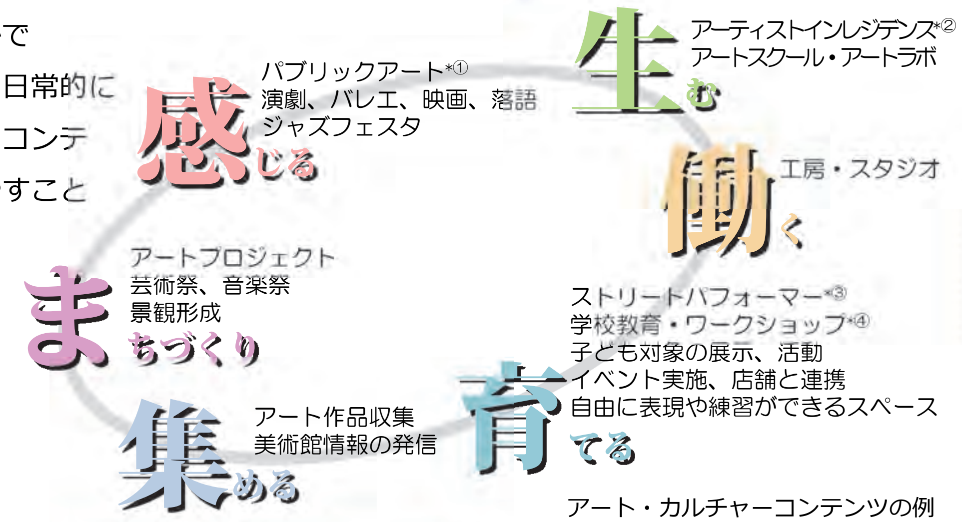


ホールの例／
左：ミューザ川崎シンフォニーホール
提供：ミューザ川崎シンフォニーホール
右：オリンパスホール八王子

<取り組みのアイデア>

まちなかでのアート・カルチャーコンテンツの充実

来街者が、まちなかでアート・カルチャーに日常的にふれあうことのできるコンテンツやイベントを増やすことで、町田発のアート・カルチャーの発信と育成を行う。



アート・カルチャーコンテンツの例

【事例】 各地で行われているアート・カルチャーコンテンツの例

マイケル・ランディ《アート・ビン》2010/2014
撮影：加藤健　写真提供：横浜トリエンナーレ組織委員会

芸術祭／横浜トリエンナーレ

横浜市で3年に1度行われる現代アートの国際展。アートを通して、まちにひろがり、世界とつながり、横浜のまちづくりに寄与しつつ、新しい価値を世界に発信することを目指している。

アートラボ／アートラボはしもと（相模原市）

「アートラボはしもと」は、周辺にある美術大学などと連携し、そこで学ぶ美大生や卒業生、子どもたちや地域の方々、商店街や企業、学校、研究機関、市民グループなどと協力し合いながら、さまざまなアート事業を展開する"アートの活動拠点"

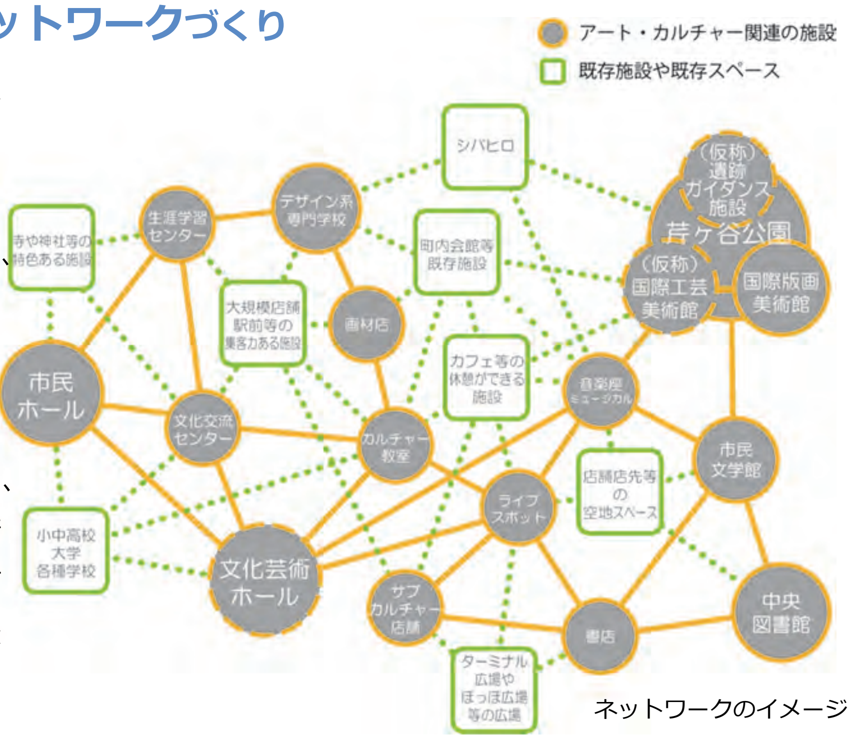
イベント／阿佐ヶ谷ｼﾞｬｽﾞｽﾄﾘｰﾄ

企業のロビー、喫茶店、レストランなど普段の生活空間がジャズの演奏会場となるジャズイベント

アート・カルチャーのネットワークづくり

町田に既にあるアート・カルチャーに関わる施設の可能性を広げるために、アート・カルチャーの拠点となる施設の整備、既存施設やスペースのさらなる活用、それらを中心としたネットワークづくりを行う。

また、施設間の連携を強化し、様々なアート・カルチャーの情報交換やブランディング*⑤、育成を互いに連携・結びつかせながら進めていく。



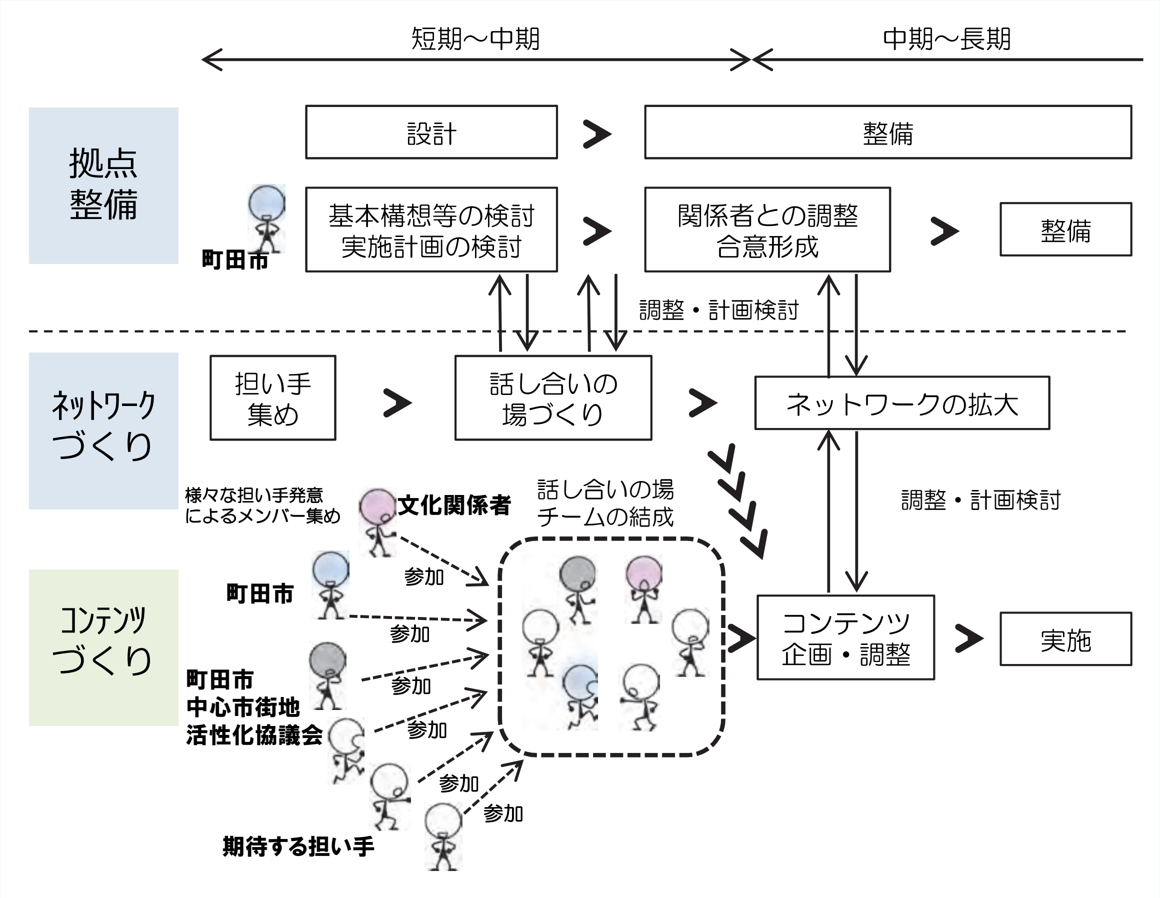
ネットワークのイメージ

プロジェクトの進め方

□ プロジェクトの進め方

●町田市が拠点整備の検討を行う

●様々な担い手の発意と呼びかけで話し合いの場を作り、ネットワークやコンテンツをつくっていく



□ プロジェクトの担い手

★：期待する担い手

【取り組み主体】 町田市
アート・カルチャーに関わる人・団体・施設が集まる組織★

【関係者】 アーティスト★ 住民★ 学生★ 学校★ 活動団体★
文化施設所有者★ 民間事業者★ 町田市観光コンベンション協会★
国際版画美術館友の会★

【町田市関係部署】 文化スポーツ振興部 経済観光部 都市づくり部
生涯学習部

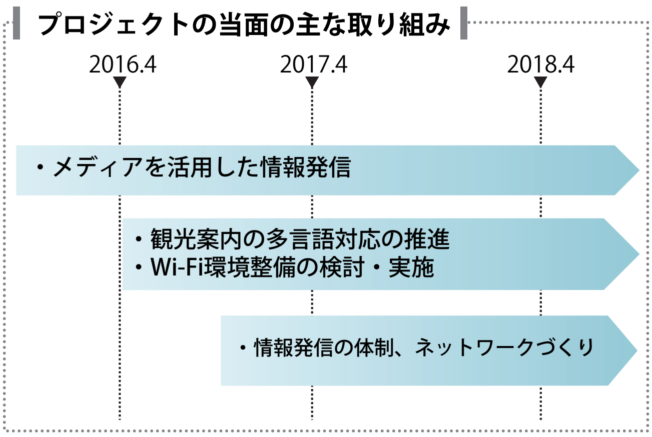
用語解説

＊①パブリックアート：公共的な空間（道路や公園など）に設置される芸術作品。
＊②アーティストインレジデンス:ここでは、芸術家を一定期間ある地域に滞在させて、滞在中の創作活動を支援すること。
＊③ストリートパフォーマー：街頭で曲芸や踊りなどを独自 の表現で演じる人。
＊④ワークショップ：ここでは、参加者自ら参加・体験して共同で学びあったり何かを生み出したりする場のこと。
＊⑤ブランディング：ブランドとして構築して価値を高めること。

10 まちの魅力情報発信プロジェクト

来街者数の増加、来街者の満足度の向上、将来のまちづくりの担い手の獲得に向け、まちの魅力やまちづくりの情報を、市内外に発信します。

プロジェクトのイメージ



プロジェクトの効果

効果	目指すこと	
駅前でまちの情報を得ることができる	01	駅が快適・便利
まちの魅力を知る機会が増える	02	まちに行く目的がたくさんある
出会いや活動につながる、まちのイベント等の情報を得やすくなる	04	多くの出会い・活動が生まれる

プロジェクトの目指す将来像

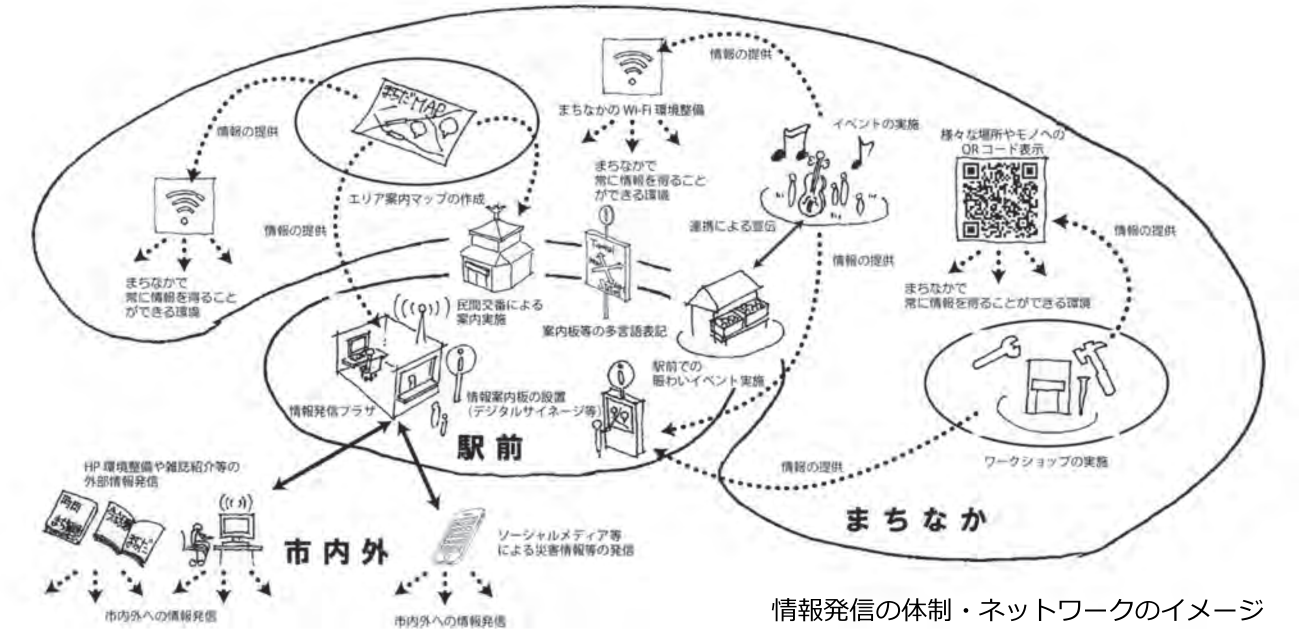
目的やターゲットに応じた効果的な情報発信の充実

情報発信の体制やネットワークを整え、様々な人々に向けて、まちの魅力やまちづくりの情報を効果的に発信します。

訪れた人々に快適かつ楽しく過ごしてもらうための情報発信

●駅前やまちなかでの案内強化
- 駅前における観光情報・地図情報等を伝える観光案内所
- 駅前やまちなかにおける情報案内板（デジタルサイネージ*①等）や案内マップの設置

●まちの魅力を効果的に伝える工夫
- 公園、広場、商店街等の人々が集まる場所の活用や、様々な形態による“まちの魅力を伝えるイベント“の定期的な実施
- いつでもどこでもまちの案内やイベント情報を得ることができる環境整備（Wi-Fi *②環境整備、QRコード*③の活用等）
- インバウンド*④に備えた外国人にもやさしい案内・サインの多言語表記



情報発信の体制・ネットワークのイメージ

様々な人々に訪れてもらうための情報発信

●市内外への情報発信の強化
- まち紹介ホームページの立ち上げ
- まち情報紹介の雑誌、テレビ、Webページ、ソーシャルメディア*⑤等の積極的な活用
- まちなかのイベント情報の積極的な発信
- まちの情報を一括管理する情報発信プラザの設置
- 市民やまちで活動する人（まちだ自慢サポーター*⑥等）による魅力の発信

まちづくりの新たな担い手を獲得するための情報発信

●取り組みの紹介
- まちづくりの取り組みや実施状況を紹介するホームページの立ち上げ
- 新たな担い手がまちづくりに参加しやすくなるような情報の積極的な発信

●取り組みのアイデアの検討
- ワークショップ*⑦等の開催

プロジェクトの取り組み

<取り組みのアイデア>

駅前におけるまちの情報発信の仕掛けづくり

様々な人々が行き交う駅前で情報発信を行い、まちに人を引き込む仕掛けづくりを行う。

また、まちのコンシェルジュ*⑧等によるまち案内や、多言語に対応した情報発信による外国人観光客の来街に備えた仕掛けづくりを行う。

多言語対応の案内マップ
／タイムアウト東京「渋谷でしかできない101のことマップ」

案内所 ／左： 渋谷駅　右：吉祥寺

施設や飲食店が検索可能なデジタルサイネージ*①／渋谷駅

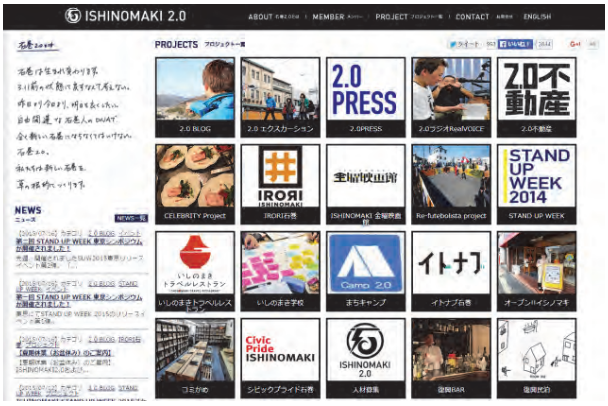
まちの情報や魅力を市内外に発信する仕掛けづくり

まちの情報やまちづくりの取り組みを常に発信するホームページの立ち上げやファッション等の特定の視点で魅力を伝えるマップ・パンフレットをつくる。また、発信力を持つ人材の育成等により、情報を効果的に発信する。

イベント広場を備えたまち情報センター
／柏の葉アーバンデザインセンター

写真提供：柏の葉アーバンデザインセンター［UDCK］

まちの魅力を様々な視点で伝えるマップ作成や鉄道会社と自治体が協働した情報発信
／WONDERFUL神田NEWS（JR東日本）

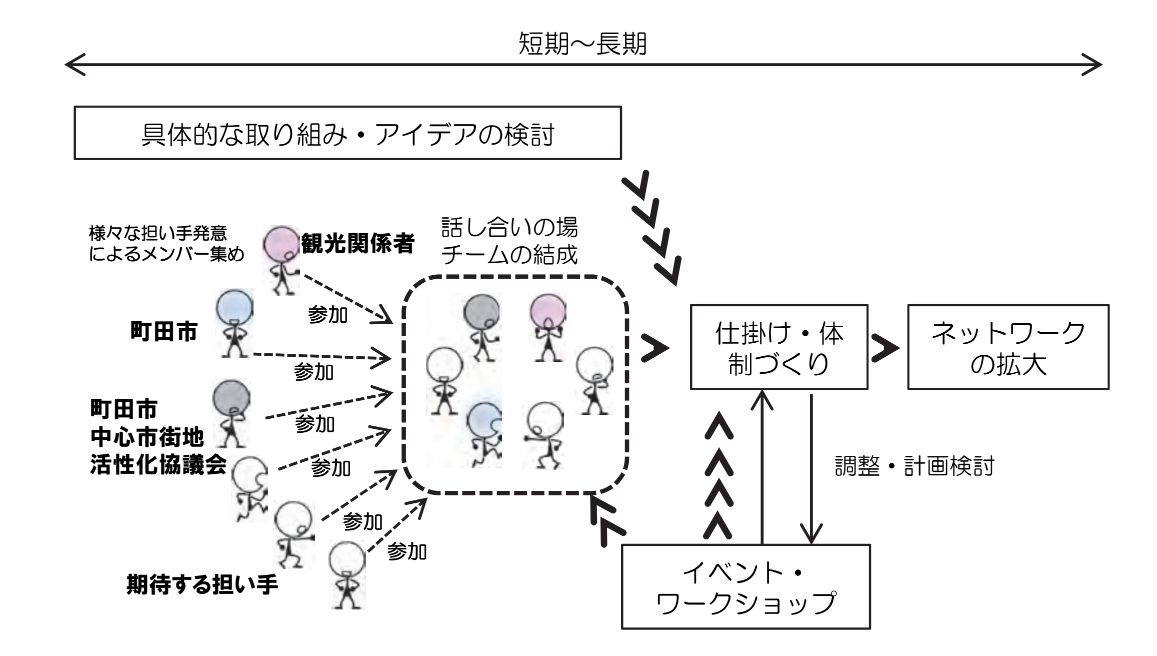


まちづくりの取り組みやプロジェクトのイベント情報を発信する仕組み（HP）／ISHINOMAKI2.0

プロジェクトの進め方

□ プロジェクトの進め方

●様々な担い手の発意で話し合いの場づくりや情報共有の場づくりを行い、ネットワークの拡大や情報発信コンテンツの充実につなげる



□ プロジェクトの担い手

★：期待する担い手

【取り組み主体】 町田市中心市街地活性化協議会
町田市観光コンベンション協会
町田市

【関係者】 町田商工会議所★ 商業者★ 住民★ 学生★
民間事業者★ 活動団体★ 等

【町田市関係部署】 経済観光部 政策経営部

用語解説

＊①デジタルサイネージ:ここでは、ディスプレイ等を使って案内や広告などを表示するシステムのこと。
＊②Wi-Fi：パソコンなどを無線でインターネットに接続できる技術のこと。
＊③QRコード：二次元バーコードの一種。携帯電話のカメラなどで読み取るとウェブサイトにアクセスすることなどができる。
＊④インバウンド:ここでは、海外から日本へ来る旅行者のこと。
＊⑤ソーシャルメディア:インターネットを利用して誰でも手軽に情報を発信し、相互のやりとりができる双方向のメディア（Facebook、Twitter、YouTube、LINE等）。
＊⑥まちだ自慢サポーター：まちだの新たな魅力を創出し、積極的に情報発信をする人。
＊⑦ワークショップ：ここでは、参加者自ら参加・体験して共同で学びあったり何かを生み出したりする場のこと。
＊⑧まちのコンシェルジュ：ここでは、道案内やまちの見どころ紹介などを行うスタッフのこと。

3 まちづくりの進め方

本章では、これからのまちづくりの進め方の視点や、取り組みの効果を把握するための指標の考え方、まちづくりを進めていくための体制を示します。

3・1
進め方の視点

「新しいまちづくりの進め方」の必要性

これからのまちづくりでは、時代に応じて多様化するニーズや予測できない状況の変化に柔軟に対応していく必要があります。

また、人口減少や高齢化、財源縮小等から、行政が中心となり整備を行ってきたこれまでのまちづくりの進め方には限界があります。

そこで、従来のやり方とは異なる「新しいまちづくりの進め方」が必要になります。

「新しいまちづくりの進め方」の３つの視点

商都として早くから栄えてきた町田市中心市街地には将来のまちづくりの担い手となり得る人・組織が数多く存在しています。

また、これまでのまちづくりによってつくられた活用できる資源が充実しています。

これらを活かしつつ、予測できない状況の変化に柔軟に対応していくことを念頭に、以下の３つの視点をもってまちづくりを進めます。

「新しいまちづくりの進め方」の視点 ①

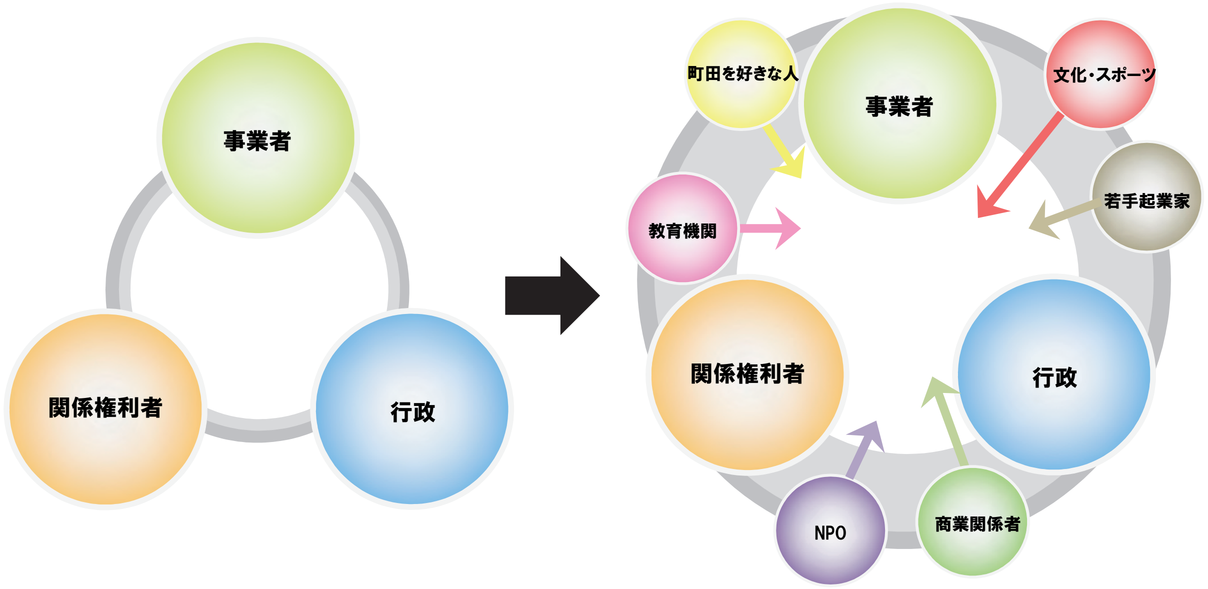
①担い手の拡大

行政＋事業関係者（関係権利者、交通事業者等）>>>> 目標を持つ誰もが担い手

　これからのまちづくりでは、行政や関係権利者、交通事業者などの事業関係者に限らず、様々な人・組織の視点をまちづくりに活かす必要があります。

　一方、早くから商都として栄えてきた町田市中心市街地では商業者や学生、若手企業家、NPO組織などの活動が盛んです。

　以上のことから、町田市中心市街地では、誰もが担い手として参加できるまちづくりを進めます。



<担い手の拡大のイメージ>

「新しいまちづくりの進め方」の視点 ②

②既存資源の活用

新たにつくりだす ＞＞＞＞ 新たにつくりだす＋今ある資源を磨き、活かし、価値を生み出す

町田市中心市街地には大規模な低未利用地が少ないこと、財源の縮小が見込まれることから、「新たにつくりだす」ことだけでまちの魅力向上を図ることは困難です。

一方、町田市中心市街地には、これまでのまちづくりでつくられてきた都市基盤・公共施設や商業・文化施設等、まちの魅力向上につながる“資源” が数多く存在しています。

そこで、必要なものを新たにつくりだすことに加えて、今ある資源を磨き、活かすことで、新たな価値を生み出していきます。

「新しいまちづくりの進め方」の視点 ③

③ 柔軟かつ広がりある進め方

1 将来のまちの姿を共有

将来のまちの姿を共有します。

↓

2 できる取り組みから順次スタート

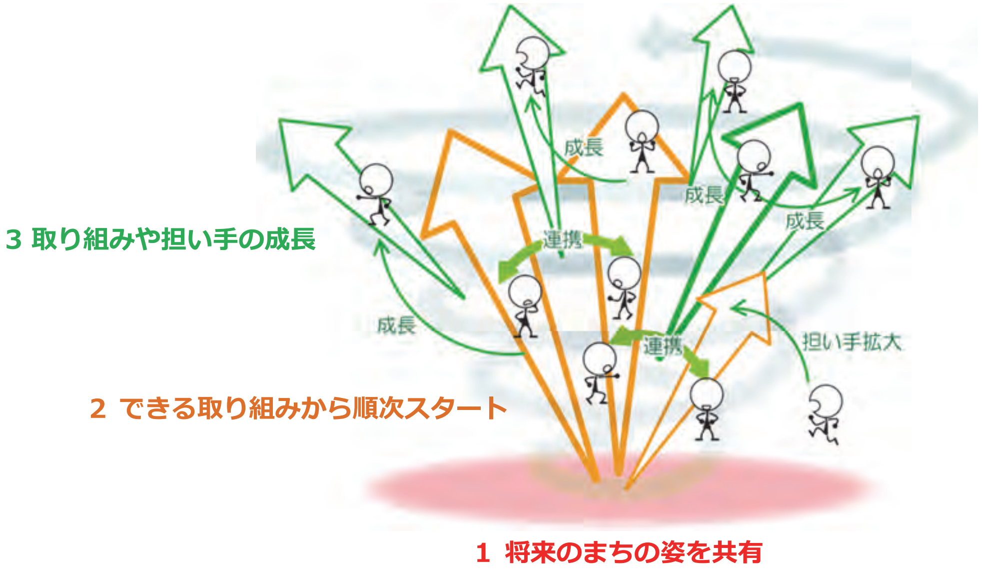
共有した将来のまちの姿の実現に向けて、**できる取り組みから順次スタート**します。

↓

3 取り組みや担い手の成長

取り組みを進めながら改善する柔軟な対応、状況の変化への適応、取り組み同士の連携、新しい担い手の参加により、**取り組みや担い手を成長**させます。

状況の変化に適応した「将来のまちの姿」が実現



柔軟かつ広がりある進め方のイメージ

3・2
取り組みの評価（指標の設定）

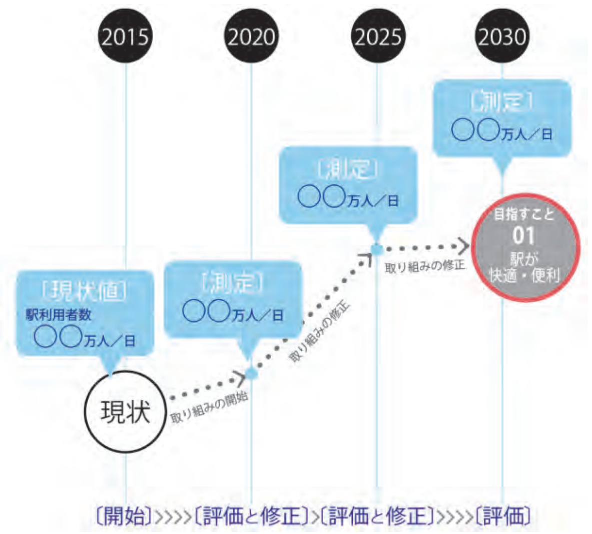
指標設定の目的（まちの変化の把握）

　まちづくりの取り組みを進める中で、常にまちの変化を把握することが重要です。

　そこで、取り組みによるまちの変化を把握するため、指標を設定し、５年毎に測定します。

指標の活用（取り組みの評価と軌道修正）

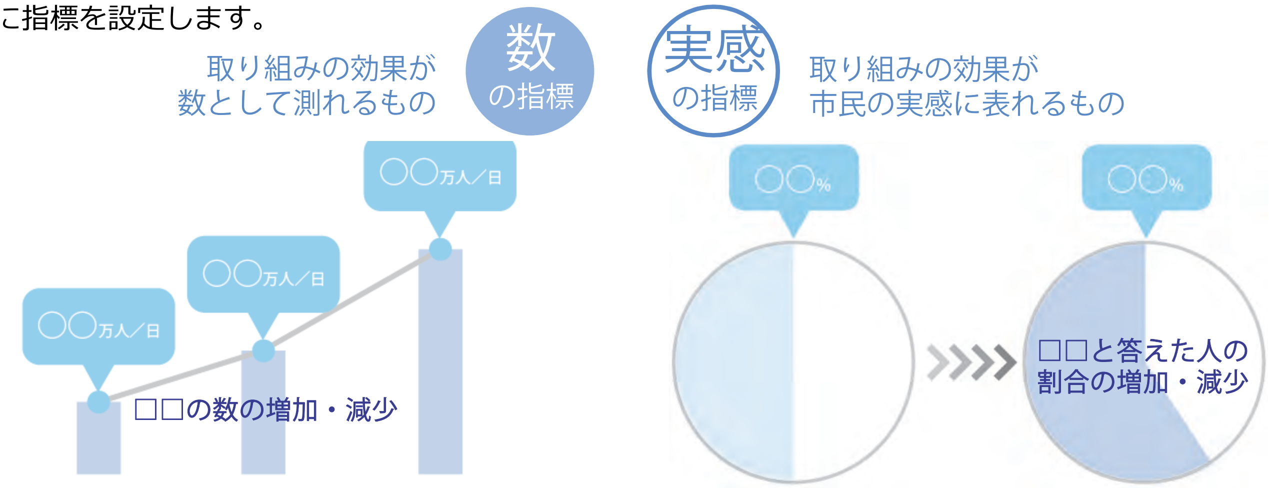
　指標の測定結果や、それに対する第三者の意見などを参考にしながら、取り組みの評価や軌道修正を行います。



まちの変化の把握による取り組みの軌道修正のイメージ

指標設定の考え方（数の指標と実感の指標）

　取り組みの効果には、「数量や値」で測れるものと「人々の実感」に表れるものがあることから、その両面でまちの変化を把握できるように指標を設定します。



例：取り組みが直接影響するもの（バス本数・イベント数の増加）や、様々な取り組みの成果として増加するもの（人数・時間の増加）
⇒統計調査等による集計

例：快適と感じるようになったと答えた人の割合
⇒市民意識調査等による集計

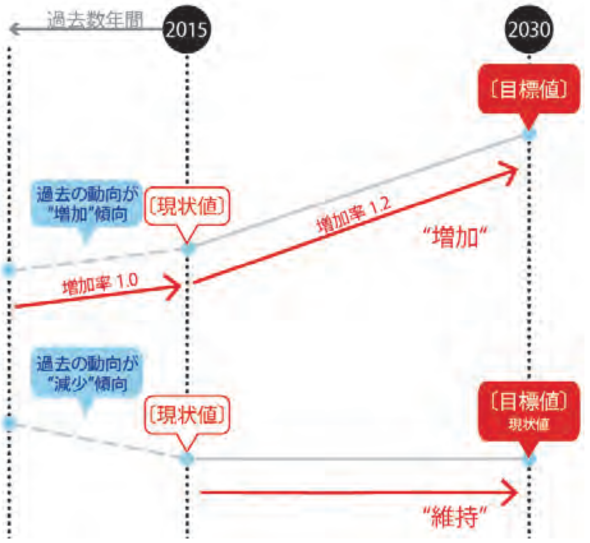
数の指標と実感の指標

［参考］2030年の目標値の考え方

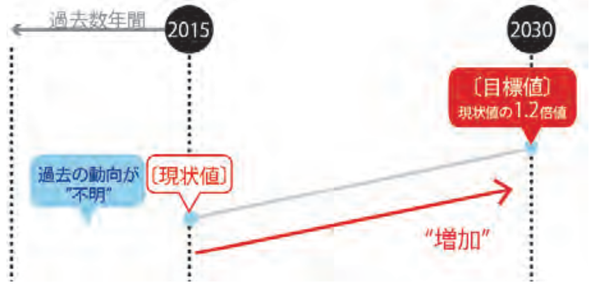
各指標の2030年の目標値は、以下の考え方に基づいて設定します。

過去の動向等により設定 ← **数の指標**　　**実感の指標** → 現状値により設定

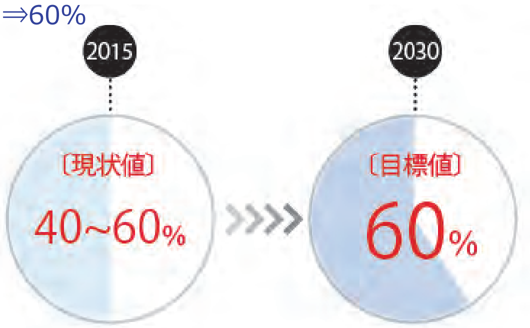
□過去の動向が把握可能な指標
　①増加傾向の場合
　　⇒増加率を２割増
　②減少傾向の場合
　　⇒現状維持



□過去の動向が把握不可能な指標
　⇒現状値の1.2倍

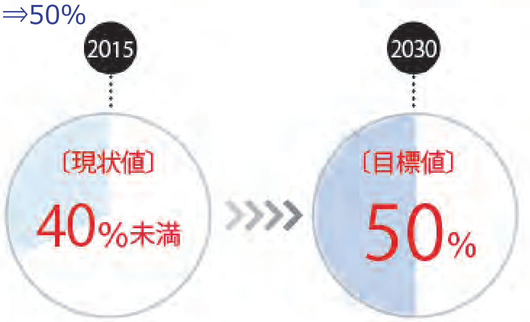


□現状値が40%以上60%未満の場合
　⇒60%



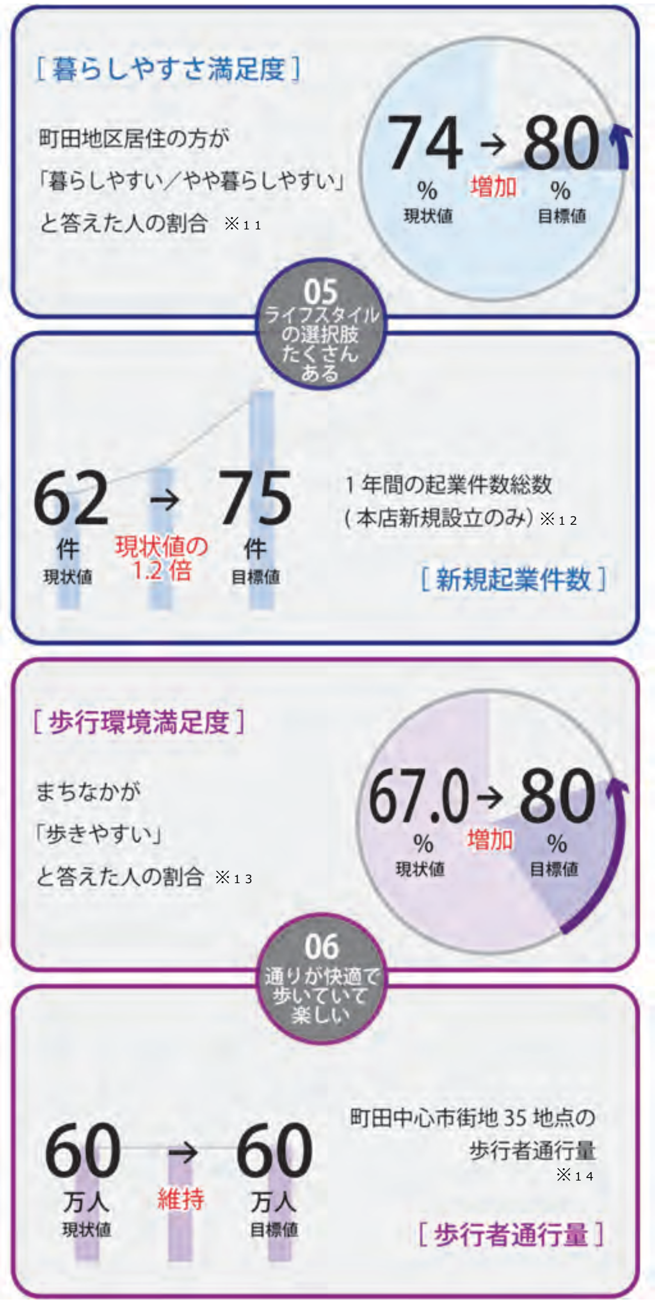
□現状値が60%以上の場合
　⇒80%

□現状値が40%未満の場合
　⇒50%



指標と目標値

取り組みの効果を測定する指標及び2030年の目標値は、次のとおりです。



※1：まちなかでの街頭アンケートによる集計（2013）
※2：バス時刻表による集計（2015）
※3：各鉄道会社による定期外1日平均降車数（2014）
※4：市民意識調査による集計（2014）
※5：市民意識調査による集計（2014）
※6：まちなかでの街頭アンケートによる集計（2015）
※7：まちなかでの街頭アンケートによる集計（2015）
※8：まちなかでの街頭アンケートによる集計（2014）
※9：指定箇所における1年間のイベント数の集計（2014）
※10：市民意識調査による集計（2014）
※11：市民意識調査による集計（2014）
※12：法人市民税データによる集計（2014）
※13：まちなかでの街頭アンケートによる集計（2014）
※14：町田市中心市街地通行量調査による集計（2014）

※1～※14のカッコ内の数字は、現状値の集計年次を示す。

3・3
まちづくりの体制

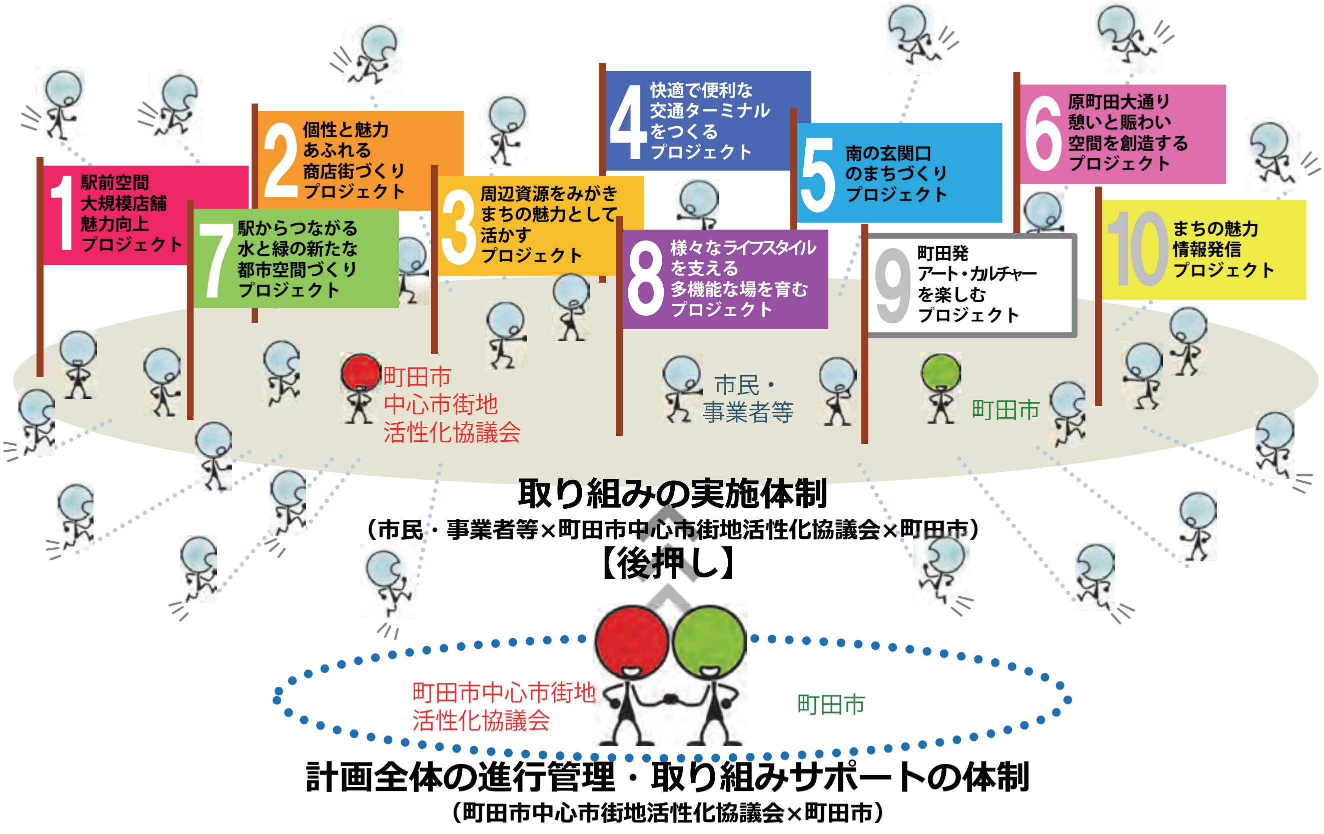
市民・事業者・町田市中心市街地活性化協議会・町田市が「将来のまちの姿」を共有し、協働してまちづくりに取り組んでいきます。

■様々な担い手がまちづくりの取り組みを実施

市民・事業者・町田市中心市街地活性化協議会・町田市等が、取り組みの内容や時期に応じて、担い手となります。

■町田市中心市街地活性化協議会と町田市が取り組みを後押し

各取り組みの担い手が効果的に動けるようにするため、町田市中心市街地活性化協議会と町田市が、情報提供や必要なサポートを行います。



計画全体の進行管理・取り組みのサポートの体制

将来のまちの姿の実現に向け、「町田市中心市街地活性化協議会※1」と町田市が2015年９月24日に締結した協定に基づき、相互に連携して計画全体の管理や取り組みのサポート等を行います。

町田市中心市街地活性化協議会

下記①~⑥に取り組みます。

町田市

産業観光課と地区街づくり課が中心となり、下記①~⑤に取り組みます。

①計画全体の進行管理・見直し検討
②事業の推進
　…各取り組みの相互連携の促進、
　「取り組みのアイデア」の具体化検討、
　整備された街並みの活用・賑わいの創出等

③取り組みの後押し

④地元の意見の集約、情報共有

⑤新たな担い手の窓口

⑥（仮称）“夢”まちプロジェクト推進会議
　※2の運営

協定締結
↓
↓
全体管理等を連携

①計画全体の進行管理・見直し検討
②事業の推進
　…各取り組みの相互連携の促進、
　「取り組みのアイデア」の具体化検討、
　街並み整備の誘導策の検討、施設の整備等

③取り組みの後押し
（地元のまちづくり活動の支援等）

④庁内調整・連携

⑤（仮称）“夢”まちプロジェクト推進会議
　※2の運営

※2 （仮称）“夢”まちプロジェクト推進会議

プロジェクトを推進するために、各プロジェクトの進行管理者である町田市中心市街地活性化協議会と町田市、および様々な担い手（次ページ以降参照）で組織します。随時各取り組みの状況の共有、取組み相互の調整、意見交換等を行います

※1 中心市街地活性化協議会

「中心市街地の活性化に関する法律」に基づく法定協議会。中心市街地の活性化・まちづくりに密接に関係する地元商業者、地域住民代表者などによって構成される、中心市街地の活性化の総合的かつ一体的な推進に関し協議する組織。

取り組みの実施体制

・進行管理者が中心となり、各プロジェクトの進め方の検討や体制づくりを進めていきます。
・ここに示す担い手に限定せず、各プロジェクトの特性に応じて様々な担い手の参画を促していきます。

各プロジェクトの実施体制（プロジェクト１～４）

プロジェクト名称	取り組みの内容	取り組みの担い手 ①取り組み主体
1 駅前空間 大規模店舗 魅力向上プロジェクト	駅前大規模店舗の更新・改善	町田市■ 大規模店舗事業者 開発事業施行主体★
	公共施設の更新・改善・活用	町田市■ 公共空間活用マネジメント組織★
2 個性と魅力あふれる 商店街づくり プロジェクト	商店街の個性や魅力ある雰囲気の維持 ●地区計画等のまちづくりルールによる誘導 ●セットバック空間の活用ルール化	町田市中心市街地活性化協議会■ 町田市■
	●無電柱化	町田市■
	快適な歩行空間の実現 ●駐車場施策 ●荷捌き施策	町田市■
	個性的な店舗づくり	町田市中心市街地活性化協議会■ └商店街全体をプロデュースできる人★
	誰にでもやさしい安心・安全な商店街づくり	町田市中心市街地活性化協議会■
	賑わいを生み出す新たな魅力の創出	町田市中心市街地活性化協議会■
3 周辺資源をみがき まちの魅力として 活かすプロジェクト	周辺資源のさらなる活用 ●シバヒロの活用	町田市観光コンベンション協会
	●子どもセンターの活用	町田市■ 公共空間活用マネジメント組織★
	●芹ヶ谷公園の活用	町田市■ 公共空間活用マネジメント組織★
	周辺資源へのアプローチの充実	町田市中心市街地活性化協議会■ 町田市■ 公共空間活用マネジメント組織★
4 快適で便利な 交通ターミナル をつくるプロジェクト	快適に使える交通ターミナルづくり ●交通ターミナル機能の集約 ●乗場待機スペースの快適化	町田市■
	●案内表示の工夫	町田市■
	様々な場所にアクセスできる	交通事業者（鉄道・バス・タクシー等）

【キーワード】
①取り組み主体：取り組みの実現に向けて、主体的に推進力となる人・組織。

②関係者：取り組みの実現の過程で関係する人・組織（取り組み主体を除く）。参画を期待する人・組織。
注）町田市中心市街地活性化協議会■と町田市■はすべてのプロジェクトに関係することから、記載を省略しています。

③進行管理者：各プロジェクトの責任者として、プロジェクトの進行管理や担い手の支援を行う人・組織。

■：町田市中心市街地活性化協議会 ■：町田市 ★：期待する担い手
：取り組みの推進に向けて、新たな担い手の参入を特に期待するもの

②関係者	③プロジェクトの進行管理者
小田急電鉄 ＪＲ東日本	町田市■
小田急電鉄 ＪＲ東日本 大規模店舗事業者★ 施設・植栽管理維持団体★ 商業者等★	
関係権利者 商業者	町田市中心市街地活性化協議会■ 町田市■
関係権利者 商業者	
町田まちづくり公社 商業者 民間事業者	
商業者★ 不動産所有者★ 不動産業者★	
―	
商業者★ 学校★ 学生★ 住民★ 町田商工会議所★ 町田まちづくり公社★ 起業家★	
住民★ 学生★ 民間事業者★ 活動団体★ 各分野専門団体★	町田市■
住民★ 学生★ 民間事業者★ 活動団体★ 各分野専門団体★	
町田市観光コンベンション協会★ 住民★ 学生★ 民間事業者★ 活動団体★ 各分野専門団体★	
住民★ 学生★ 民間事業者★ 活動団体★ 各分野専門団体★	
交通事業者（鉄道・バス・タクシー等） 関係権利者	町田市■
小田急電鉄 ＪＲ東日本	
―	

各プロジェクトの推進体制（プロジェクト5～10）

プロジェクト名称	取り組みの内容	取り組みの担い手 ①取り組み主体
5 南の玄関口のまちづくりプロジェクト	町田駅南側に来街者を迎え入れる玄関口をつくる	町田市■ 開発事業施行主体★
	町田駅南側からまちなかへのアクセス強化	町田市■
	駅前の生活拠点づくり	町田市■ 開発事業施行主体★
6 原町田大通り憩いと賑わい空間を創造するプロジェクト	原町田大通りを活用した憩いの空間づくり 原町田大通りを活用した賑わいの創出	町田市中心市街地活性化協議会■ 公共空間活用マネジメント組織★
7 駅からつながる水と緑の新たな都市空間づくりプロジェクト	駅近くの新たな都市空間づくり 団地再生に伴う住環境・都市基盤の整備	町田市■ 東京都住宅供給公社 開発事業施行主体★
8 様々なライフスタイルを支える多機能な場を育むプロジェクト	将来の担い手の活躍の機会づくり ●ビジネス創出や拡大の仕組みづくり	町田市■ 町田商工会議所 町田新産業創造センター 起業を支援する民間組織★
	●若い世代の活躍の機会づくり	町田市■ さがまちコンソーシアム★
	様々なライフスタイルを生み出す 個性的な不動産活用の仕組みづくり	不動産活用の仕組みを作る組織★
	生活を支える機能の導入推進	町田市■
	商業環境と調和したみどりある良好な住宅の誘導	町田市■
9 町田発アート・カルチャーを楽しむプロジェクト	アート・カルチャーの拠点づくり ●（仮称）国際工芸美術館の整備の検討	町田市■
	●（仮称）高ヶ坂縄文時代遺跡ガイダンス施設の整備の検討	町田市■
	●芹ヶ谷公園の再整備	町田市■
	●文化芸術ホールの検討	町田市■
	まちなかでのアート・カルチャーコンテンツの充実 アート・カルチャーのネットワークづくり	アート・カルチャーに関わる 人・団体・施設が集まる組織★
10 まちの魅力情報発信プロジェクト	駅前におけるまちの情報発信の仕掛けづくり まちの情報や魅力を市内外に発信する仕掛けづくり	町田市中心市街地活性化協議会■ 町田市観光コンベンション協会 町田市■

【キーワード】
①取り組み主体：取り組みの実現に向けて、主体的に推進力となる人・組織。

②関係者：取り組みの実現の過程で関係する人・組織（取り組み主体を除く）。参画を期待する人・組織。
注）町田市中心市街地活性化協議会■と町田市■はすべてのプロジェクトに関係することから、記載を省略しています。

③進行管理者：各プロジェクトの責任者として、プロジェクトの進行管理や担い手の支援を行う人・組織。

■：町田市中心市街地活性化協議会 ■：町田市 ★：期待する担い手
：取り組みの推進に向けて、新たな担い手の参入を特に期待するもの

②関係者	③プロジェクトの進行管理者
関係権利者	町田市■
ＪR東日本	
関係権利者	
商業者★ 活動団体★ 各分野専門団体★ 学生★ 個人★ 企業★	町田市中心市街地活性化協議会■ 町田市■
関係権利者 小田急電鉄 ＪＲ東日本	町田市■
不動産所有者★ 民間事業者★ 金融機関★ 起業家★ 学校★ 学生★	町田市■
学校★ 学生★	
民間事業者★ 不動産所有者★ 不動産業者★ 起業家★ 町田商工会議所★ 金融機関★	
住民★ 民間事業者★	
住民★ 民間事業者★	
―	町田市■
―	
―	
アーティスト★ 住民★ 学生★ 学校★ 活動団体★ 文化施設所有者★ 民間事業者★ 町田市観光コンベンション協会★ 国際版画美術館友の会★	
町田商工会議所★ 商業者★ 住民★ 学生★ 民間事業者★ 活動団体★ 等	町田市中心市街地活性化協議会■